

拡大教授会

○ 報告事項

1. 総務委員会報告
2. 研究科長・学部長・研究所長合同会議等報告（総A1号）（総A2号）
3. 全学環境安全衛生管理室等会議・事故災害報告（総B2号）
4. 教室一時貸付料金の改定について（経B1号）
5. 研究費不正使用の注意喚起（研B4号）
6. 各委員会報告（教B1号）
7. その他
 - ・第10期運営諮問会議について
 - ・図書館II期棟のPFI事業について
 - ・researchmapの更新について
 - ・2023年夏駒場Iキャンパス節電の状況およびお願い
 - ・教養教育高度化機構「アクティブラーニングニュースレター」の発行について

○ 議題

1. 研究インテグリティ・研究倫理教育の取り扱いについて（案）（研B5号）
2. 東京大学教養学部規則の一部を改正する規則（案）について（教B2号）

教授会

○ 教員人事

講	師	提	案	2件
准	教	提	案	1件
		報	告	7件
教	授	提	案	1件
		報	告	5件

計16件

委員会関係

教務委員会 ・2023年度Sセメスター（S2ターム）追試験の実施について（教B1号）
・Sセメスター・S2ターム定期試験監督および成績報告等について

財務委員会

教育研究経費委員会

情報基盤委員会

入試委員会

教養教育評価委員会

学生委員会

三鷹国際学生宿舎
運営委員会

図書委員会

前期運営委員会

後期運営委員会

建設委員会

環境委員会

防災委員会

その他

拡大教授会および教授会議事要旨(案)

日時 2023年6月15日(木) 15:01~16:20
場所 Zoom会議
出席者 237名

議 題

○ 報告事項

1. 総務委員会報告

研究科長から、6月1日、6月15日開催の総務委員会について説明・報告があった。

2. 研究科長・学部長・研究所長合同会議等報告

研究科長から、5月23日、6月6日開催の研究科長・学部長・研究所長合同会議について、資料(総A1号)(総B2号)に基づき説明・報告があった。

3. 全学環境安全衛生管理室等会議・事故災害報告

環境安全管理室道上達男室長から、資料(総B3号)に基づき報告があった。

4. ファカルティ・ハウスの利用料金について

研究科長から、資料(研B3号)に基づき報告があった。

5. 各委員会報告

・郷原佳以教育研究経費委員会委員長から、教育支援経費の要求について、資料(経B2号)に基づき説明があった。

6. その他

- ・小枝政稚総務課長から、夏季一斉休業について/年休5日取得のお願いについて説明があった。
- ・晝間敬研究科長補佐から、2023年度夏駒場Iキャンパス節電のお願いについて説明があった。
- ・増田建副研究科長から、教養学部公式SNSの開設について説明があった。
- ・増田建副研究科長から、バフワーン会長寄付建物検討WGについて説明があった。
- ・増田建副研究科長から、理系研究棟建物検討WGについて説明があった。
- ・研究科長から、相談支援研究開発センター総合窓口について説明があった。

○ 審議事項

1. 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部の教員の任期に関する規則の一部改正

月脚達彦副研究科長から、資料(総A2号)に基づき説明がなされ、審議の結果、了承された。

2. 東京大学大学院総合文化研究科に置かれる講座の組織を定める内規の一部改正

月脚達彦副研究科長から、資料(総A3号)に基づき説明がなされ、審議の結果、了承された。

3. 東京大学における教員の任期に関する規則の一部改正

月脚達彦副研究科長から、資料(総A4号)に基づき説明がなされ、審議の結果、了承された。

4. 2023年度予算案

増田建副研究科長から、資料(経B1号)に基づき説明がなされ、審議の結果、了承された。

5. アドバンスト文理融合運営委員会規則の変更について

櫻井英治教務委員会委員長から、資料(教B1号)に基づき説明がなされ、審議の結果、了承された。

6. 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部とトリノ大学人文学学科との間における部局間学術交流協定及び学生交流覚書の締結について

山崎彩准教授から、資料(教B2号)に基づき説明がなされ、審議の結果、了承された。

以下、教授会構成員対象の議題です。

○ 教員人事

退出転出等				1 件
准 教 授	提	案		2 件
	報	告		3 件

計 6 件

以上

議題及び資料

- | | | |
|----|---|-------|
| 01 | 学内外情勢 | 総長 |
| | (資料1) 学内外情勢 | |
| 02 | UTokyo Climate Actionの推進 東京都創エネ助成金交付申請に基づく採択結果
* 報告 | 大久保理事 |
| | (資料2) ～UTokyo Climate Actionの推進～東京都創エネ助成金交付申請に基づく採択結果について(報告) | |
| 03 | 2023年度女性教員スタートアップ研究費支援、女性研究者研究スキルアップ支援、リスタートアップ研究費支援の各支援事業の実施
* 報告 | 林理事 |
| | (資料3) 3-1:男女共同参画室_2023年度研究費支援事業、3-2:(参考)2023年度男女共同参画室の事業について | |
| 04 | 令和4年度決算会計実地検査結果
* 報告 | 大澤執行役 |
| | (資料4) 令和4年度決算会計実地検査結果講評事項の概要(学内限り) | |
| 05 | 競争的研究費等の不正使用防止の徹底
* 報告 | 齊藤理事 |
| | (資料5) 競争的研究費等の不正使用防止の徹底について | |
| 06 | 裁量労働従事者報告カードにおける項目の追加等
* 報告 | 今泉理事 |
| | (資料6) 裁量労働従事者報告カードにおける項目の追加等について | |
| 07 | 本学の情報システムを利用する全構成員を対象とする情報セキュリティ教育の実施
* 報告 | 今泉理事 |
| | (資料7) 本学の情報システムを利用する全構成員を対象とする情報セキュリティ教育の実施について(依頼)(学内限り) | |
| 08 | UTokyo Account における多要素認証利用率100%の達成に向けて
* 報告 | 太田理事 |
| | (資料8) UTokyo Account における多要素認証利用率100%の達成に向けて(学内限り) | |
| 09 | SPRING GX 2023年4月採用結果及び2023年秋募集
* 報告 | 齊藤理事 |
| | (資料9) SPRING-GX2023年4月採用結果及び2023年秋募集について | |
| 10 | 2023年度東京大学ニューヨークオフィス(UTokyoNY)イベント【第1期】選定結果および【第2期】募集開始のご報告
* 報告 | 津田理事 |
| | (資料10) 2023年度・第1期東京大学ニューヨークオフィス(UTokyoNY)助成イベント | |
| 11 | GO GLOBAL東大留学フェア2023開催報告
* 報告 | 矢口副学長 |
| | (資料11) GO GLOBAL東大留学フェア2023開催報告 | |
| 12 | 寄付講座、社会連携講座及び国立研究開発法人連携講座等の設置等
* 報告 | 齊藤理事 |
| | (資料12) 寄付講座、社会連携講座及び国立研究開発法人連携講座等の設置等 | |
| 13 | その他 | 大久保理事 |
| | (1) 令和5年度東京大学秋季式典 | |
| | (資料13) 令和5年度東京大学秋季式典 | |

議題及び資料

01	学内外情勢 (資料1) 学内外情勢	総長
02	エンダウド研究組織の財源スキーム * 審議 (資料2) 2-1:Endowed研究組織の財源スキームについて(案)、2-2:総長室総括委員会組織図	相原理事 齊藤理事
03	令和4事業年度決算 * 報告 (資料3) 3-1:令和4年度(2022年度)決算概要、3-2:令和4年度収入・支出決算額調書、3-3:令和4年度財務諸表、3-4:令和4年度決算報告書、3-5:令和4年度事業報告書、3-6:令和4年度連結財務諸表	相原理事
04	国立大学法人等の役員の報酬等及び職員の給与水準の公表 * 報告 (資料4) 国立大学法人東京大学の役職員の報酬・給与等水準の公表について(概要)	今泉理事
05	東京大学における男女間の賃金の差異の公表 * 報告 (資料5) 5-1:東京大学における男女間の賃金の差異の公表について、5-2:リーフレット(厚生労働省)	今泉理事
06	育児・介護休業法に基づく男性労働者の育児休業取得率等の公表 * 報告 (資料6) 育児・介護休業法に基づく男性労働者の育児休業取得率等の公表	今泉理事
07	令和4年度内部監査実施報告及び令和5年度内部監査年次計画 * 報告 (資料7) 令和4年度内部監査実施報告について	大澤執行役
08	コンプライアンス・リーガルマネジメント教育の実施 * 報告 (資料8) 本学の全教職員等を対象とするコンプライアンス・リーガルマネジメント教育の実施について(依頼)(学内限り)	今泉理事
09	「次世代科学技術チャレンジプログラム」令和5年度募集に係る選定結果 * 報告 (資料9) 「次世代科学技術チャレンジプログラム」令和5年度募集に係る選定結果について	津田理事
10	2023年度の電力需給対策 * 報告 (資料10) 2023年度の電力需給対策について	大久保理事
11	東大Week2023開催(三菱地所株式会社との産学協創) * 報告 (資料11) 東大Week2023企画	津田理事
12	第2期D&Iキャンペーンの実施 * 報告 (資料12) 第2期D&Iキャンペーンについて	河村執行役
13	その他 (1) 2023年度東京大学校友会組織財務・行事計画 (資料13) 東京大学校友会組織財務・23年度行事計画	津田理事

2023年7月全学環境安全管理室等会議・事故災害報告(要約)

・休業4日以上

23065I 事務職員(女性:50歳);階段を降りる際に衣服の裾を靴にひっかけて転倒し、左肩を骨折した。
(休業8日)

・休業4日未満

23051M 学術専門職員(女性:37歳);通路の縁石に足をひっかけて転倒し、背骨を捻挫した。(休業2日)

23055M 看護補助者(女性:38歳);医療廃棄物の入った袋の口を縛る際に、袋を突き破った針が右前腕に刺さった。(休業1日)

23069M D2 院生(男性:25歳);薬品(トリフルオロ酢酸)漏洩事故が生じている実験室の前の廊下を通りがかった際、薬品の蒸気を吸い込み気分が悪くなった。(休業1日)

・不休業事故・災害

22332F 研修医(男性:47歳);構内を歩行中、自転車に追突され転倒した。

23049F 雇用外教職員(女性:67歳);鉢替え作業中に左腕をハチに刺された。

23052F M1 院生(女性:23歳);八連チューブをはさみで切る際に、右手の手のひらを切った。

23053F 学術専門職員(女性:37歳);木材加工をした際に生じた木粉を掃除していたところ、装着していた簡易マスクがはずれ木粉を吸い込んだ。

23057F 事務職員(女性:44歳);構内を歩行中、蓋が外されていた側溝に足が落ちて転倒した。

23058F 技術補佐員(女性:35歳)落ち葉を網ネットに入れて搬出作業を行っていた際、網目に指が引っ掛かった状態で作業を行っていたため、右手薬指を捻挫した。

23061F D2 院生(男性:26歳);走行中の自転車の車輪が石畳の凹凸に引っかかり、前方に投げ出された際に頭部から地面に落下した。

23068F M2 院生(女性:26歳);配管の配置変更作業中、ボルトを緩めたところ不意に配管が動き、配管と支持材の間に左手人差し指が挟まれた。

23072F 特任研究員(男性:30歳);ヘリウム冷凍機を移動させようとした際に、冷凍機と光学定盤の間に右手人差し指が挟まれ、末梢神経を損傷した。

・通勤災害

23054J M1 院生(男性:23歳);自転車で帰宅中、T字路で軽トラックと衝突し自転車が破損した。

23056J 教授(男性:58歳);自転車で帰宅中、ガードレールにペダルが引っかかり、同時にハンドルで左胸を強打。肋骨を骨折した。

23060J 事務職員(女性:56歳);自動車で出勤中、車道と歩道の段差を乗り越えようとして転倒した。

23066J 事務職員(女性:53歳);出勤時、電車乗り換えのため降車した際に、乗り込もうとする乗客と接触して転倒し、前歯が折れた。

23067J 学術専門職員(女性:57歳);帰宅時、前方から来た自転車を避けようとして左に寄ったところ、街路樹を囲うブロックに足をとられ転倒。左足を骨折した。

・その他

23071S 教務補佐員(女性:42歳);昼休憩時、(構外を)歩行中に後方から乗用車に追突された。

・人的被害なし、設備災害でない小火あり

23063Nf 配電盤のブレーカーが落ちていたため電源タップを確認したところ、床下配線の電源タップに焦げと溶融痕が見つかった。(消防から火災認定)

・人的被害なし、設備災害でない破裂あり

22062Nb ドラフト内で廃液タンクに過酸化水素水と臭化水素酸を入れたところ、反応してタンクが破裂。ドラフトが破損し、タンクとその内容物が外に飛び出した。

・人的被害なし、設備災害でない機器・施設損傷あり

23059Nd 駐車場から自動車を出した際に、ポールと接触し破損させた。

・人的被害なし、設備災害でない有害物（臭）流出あり

23050NI ネジキャップ付きのガラス管を加熱していたところ、内圧でキャップが破裂し、反応液が周囲に飛散した。

以上 教養学部等環境安全管理室

令和5年6月28日

教職員等関係各位

環境安全管理室長

令和5年度「火災リスクアセスメント」の実施について（依頼）

令和3年8月15日に本郷キャンパスで発生した大規模な火災事故を受け、火災防止への取組として令和5年2月に「東京大学防火マニュアル2023」が策定されました。本マニュアルでは各部屋等において火災リスクに関するアセスメントを年1回以上実施し、火災リスクを合理的に低減して火災の未然防止を図ること、と定められております。

つきましては、下記の要領にて、本年度の火災リスクアセスメントの実施をお願いいたします。

記

1. 内容：キャンパス内のすべての部屋の火災リスクアセスメントの実施
2. 場所：キャンパス内のすべての部屋（研究室・実験室・講義室・事務室・廊下など ※トイレや給湯室も含む）
3. 実施及び報告期限：令和5年9月1日（金）
4. 実施者：研究室・事務室等に所属している構成員（教職員・学生など）
※複数の研究室等で使用している部屋・箇所は、使用している研究室等の間で事前に調整のうえ確実に実施してください。
※上記以外の共通部分（講義室等）や、何れの研究室等にも属さず管理者が不明の部屋・箇所は、事務部等で実施してください。
5. 実施、報告方法：「防火マニュアル」およびリスクアセスメント実施説明会資料等を参考に実施し、実施内容を以下の火災リスクアセスメント補助ツールに入力してください。ツール画面最下段の「スプレッドシート作成」を実行することで報告が完了します。

補助ツール

https://script.google.com/macros/s/AKfycbxFCtXQLB66xCc4BEbIC5s1QCR16TTxLlmf_tPdbjtE28wNDNdnK73FEAmNQhP18WyW/exec

※利用には東京大学 ECCS クラウドメールアカウントが必要となります。

※本ツールによる報告内容は学内で公開されることを前提とし、特に「担当者連絡先」については入力内容にご留意ください。（「担当者連絡先」は空欄で構いません）。

関連資料等

https://univtokyo.sharepoint.com/sites/EHS_portal/SitePages/d/Fire_Riskassessment.aspx?source=https%3a//univtokyo.sharepoint.com/sites/EHS_portal/SitePages/Forms/ByAuthor.aspx?RootFolder%3D%252Fsites%252FEHS%2525Fportal%252FSitePages%252Fd%26FolderCTID%3D0x012000AAD8F12AB3D5FD4E93C767452FAF2D24

以上、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

【本件担当】

教養学部等環境安全管理室

E-mail: kankyo-anzen.c@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

教室収容人数・教室貸付料金表(外部)

【現行】

建物名称 及び 教室番号	使用面積 ㎡	収容人数 人	貸付料 (時間単価) 円	時間	料金
1号館					
1F-101	87	80	1,600	¥	-
102	58	48	1,600	¥	-
103	58	48	1,600	¥	-
104	87	80	1,600	¥	-
105	87	80	1,600	¥	-
106	87	80	1,600	¥	-
107	87	80	1,600	¥	-
108	87	80	1,600	¥	-
109	134	132	2,700	¥	-
112	87	80	1,600	¥	-
113	87	80	1,600	¥	-
114	58	40	1,600	¥	-
115	58	40	1,600	¥	-
116	58	40	1,600	¥	-
117	58	40	1,600	¥	-
118	58	40	1,600	¥	-
119	58	40	1,600	¥	-
120	58	40	1,600	¥	-
121	84	80	1,600	¥	-
122	84	80	1,600	¥	-
2F-149	58	48	1,600	¥	-
150	58	48	1,600	¥	-
151	58	48	1,600	¥	-
152	58	48	1,600	¥	-
153	58	48	1,600	¥	-
154	58	48	1,600	¥	-
155	58	48	1,600	¥	-
156	58	48	1,600	¥	-
157	87	80	1,600	¥	-
158	58	56	1,600	¥	-
159	134	132	2,700	¥	-
162	87	80	1,600	¥	-
164	116	112	2,700	¥	-
166	116	112	2,700	¥	-
3F-184	112	127	2,700	¥	-
192	149	169	2,700	¥	-
5号館					
511	108	100	2,700	¥	-
512	108	100	2,700	¥	-
513	108	100	2,700	¥	-
514	108	100	2,700	¥	-
515	54	36	1,600	¥	-
516	54	36	1,600	¥	-
517	54	36	1,600	¥	-
518	54	36	1,600	¥	-
2F-521	108	100	2,700	¥	-
522	108	100	2,700	¥	-
523	162	160	3,800	¥	-
524	162	160	3,800	¥	-
525	252	262	5,800	¥	-
3F-531	162	160	3,800	¥	-
532	162	160	3,800	¥	-
533	162	160	3,800	¥	-
534	54	30	1,600	¥	-

建物名称 及び 教室番号	使用面積 ㎡	収容人数 人	貸付料 (時間単価) 円	時間	料金
7号館					
2F-721	163	198	3,800	¥	-
722	109	120	2,700	¥	-
723	163	198	3,800	¥	-
724	163	198	3,800	¥	-
3F-741	163	209	3,800	¥	-
742	109	120	2,700	¥	-
743	372	446	8,000	¥	-
4F-761	249	300	5,800	¥	-
762	55	30	1,600	¥	-
11号館					
1F-1101	165	196	3,800	¥	-
1102	165	196	3,800	¥	-
1103	45	24	900	¥	-
1105	48	40	900	¥	-
2F-1106	320	374	8,000	¥	-
1107	34	18	900	¥	-
1108	180	210	3,800	¥	-
1109	47	24	900	¥	-
12号館					
1F-1211	52	53	1,600	¥	-
1212	108	100	2,700	¥	-
1213	108	98	2,700	¥	-
1214	108	100	2,700	¥	-
2F-1221	52	53	1,600	¥	-
1222	108	131	2,700	¥	-
1223	24	12	900	¥	-
1224	54	48	1,600	¥	-
1225	158	180	3,800	¥	-
1226	54	48	1,600	¥	-
3F-1231	52	53	1,600	¥	-
1232	108	131	2,700	¥	-
1233	43	24	900	¥	-
13号館					
1F-1311	117	137	2,700	¥	-
1312	117	136	2,700	¥	-
1313	322	352	8,000	¥	-
2F-1321	117	137	2,700	¥	-
1322	117	136	2,700	¥	-
1323	379	536	8,000	¥	-
3F-1331	195	248	3,800	¥	-
4F-1341	122	120	2,700	¥	-
講堂					
900	463	656	10,600	¥	-

電話回線使用料			
教室番号	日数	単価(円)	金額(円)
		10,000	¥ -

料金合計	¥ -
-------------	-----

教室収容人数・教室貸付料金表(外部)

【改定】令和6年1月1日

建物名称 及び 教室番号	使用面積 ㎡	収容人数 人	貸付料 (時間単価) 円	時間	料金
1号館					
1F-101	87	80	1,900	¥	-
102	58	48	1,900	¥	-
103	58	48	1,900	¥	-
104	87	80	1,900	¥	-
105	87	80	1,900	¥	-
106	87	80	1,900	¥	-
107	87	80	1,900	¥	-
108	87	80	1,900	¥	-
109	134	132	3,300	¥	-
112	87	80	1,900	¥	-
113	87	80	1,900	¥	-
114	58	40	1,900	¥	-
115	58	40	1,900	¥	-
116	58	40	1,900	¥	-
117	58	40	1,900	¥	-
118	58	40	1,900	¥	-
119	58	40	1,900	¥	-
120	58	40	1,900	¥	-
121	84	80	1,900	¥	-
122	84	80	1,900	¥	-
2F-149	58	48	1,900	¥	-
150	58	48	1,900	¥	-
151	58	48	1,900	¥	-
152	58	48	1,900	¥	-
153	58	48	1,900	¥	-
154	58	48	1,900	¥	-
155	58	48	1,900	¥	-
156	58	48	1,900	¥	-
157	87	80	1,900	¥	-
158	58	56	1,900	¥	-
159	134	132	3,300	¥	-
162	87	80	1,900	¥	-
164	116	112	3,300	¥	-
166	116	112	3,300	¥	-
3F-184	112	127	3,300	¥	-
192	149	169	3,300	¥	-
5号館					
511	108	100	3,300	¥	-
512	108	100	3,300	¥	-
513	108	100	3,300	¥	-
514	108	100	3,300	¥	-
515	54	36	1,900	¥	-
516	54	36	1,900	¥	-
517	54	36	1,900	¥	-
518	54	36	1,900	¥	-
2F-521	108	100	3,300	¥	-
522	108	100	3,300	¥	-
523	162	160	4,800	¥	-
524	162	160	4,800	¥	-
525	252	262	7,300	¥	-
3F-531	162	160	4,800	¥	-
532	162	160	4,800	¥	-
533	162	160	4,800	¥	-
534	54	30	1,900	¥	-

建物名称 及び 教室番号	使用面積 ㎡	収容人数 人	貸付料 (時間単価) 円	時間	料金
7号館					
2F-721	163	198	4,800	¥	-
722	109	120	3,300	¥	-
723	163	198	4,800	¥	-
724	163	198	4,800	¥	-
3F-741	163	209	4,800	¥	-
742	109	120	3,300	¥	-
743	372	446	10,100	¥	-
4F-761	249	300	7,300	¥	-
762	55	30	1,900	¥	-
11号館					
1F-1101	165	196	4,800	¥	-
1102	165	196	4,800	¥	-
1103	45	24	1,200	¥	-
1105	48	40	1,200	¥	-
2F-1106	320	374	10,100	¥	-
1107	34	18	1,200	¥	-
1108	180	210	4,800	¥	-
1109	47	24	1,200	¥	-
12号館					
1F-1211	52	53	1,900	¥	-
1212	108	100	3,300	¥	-
1213	108	98	3,300	¥	-
1214	108	100	3,300	¥	-
2F-1221	52	53	1,900	¥	-
1222	108	131	3,300	¥	-
1223	24	12	1,200	¥	-
1224	54	48	1,900	¥	-
1225	158	180	4,800	¥	-
1226	54	48	1,900	¥	-
3F-1231	52	53	1,900	¥	-
1232	108	131	3,300	¥	-
1233	43	24	1,200	¥	-
13号館					
1F-1311	117	137	3,300	¥	-
1312	117	136	3,300	¥	-
1313	322	352	10,100	¥	-
2F-1321	117	137	3,300	¥	-
1322	117	136	3,300	¥	-
1323	379	536	10,100	¥	-
3F-1331	195	248	4,800	¥	-
4F-1341	122	120	3,300	¥	-
講堂					
900	463	656	13,400	¥	-

電話回線使用料			
教室番号	日数	単価(円)	金額(円)
		10,000	¥ -

料金合計	¥	-
-------------	---	---

教室収容人数・教室貸付料金表(学内)

【現行】

建物名称 及び 教室番号	使用面積 ㎡	収容人数 人	貸付料 (時間単価) 円	時間	料金
1号館					
1F-101	87	80	1,600	¥	-
102	58	48	1,600	¥	-
103	58	48	1,600	¥	-
104	87	80	1,600	¥	-
105	87	80	1,600	¥	-
106	87	80	1,600	¥	-
107	87	80	1,600	¥	-
108	87	80	1,600	¥	-
109	134	132	2,700	¥	-
112	87	80	1,600	¥	-
113	87	80	1,600	¥	-
114	58	40	1,600	¥	-
115	58	40	1,600	¥	-
116	58	40	1,600	¥	-
117	58	40	1,600	¥	-
118	58	40	1,600	¥	-
119	58	40	1,600	¥	-
120	58	40	1,600	¥	-
121	84	80	1,600	¥	-
122	84	80	1,600	¥	-
2F-149	58	48	1,600	¥	-
150	58	48	1,600	¥	-
151	58	48	1,600	¥	-
152	58	48	1,600	¥	-
153	58	48	1,600	¥	-
154	58	48	1,600	¥	-
155	58	48	1,600	¥	-
156	58	48	1,600	¥	-
157	87	80	1,600	¥	-
158	58	56	1,600	¥	-
159	134	132	2,700	¥	-
162	87	80	1,600	¥	-
164	116	112	2,700	¥	-
166	116	112	2,700	¥	-
3F-184	112	127	2,700	¥	-
192	149	169	2,700	¥	-
5号館					
511	108	100	2,700	¥	-
512	108	100	2,700	¥	-
513	108	100	2,700	¥	-
514	108	100	2,700	¥	-
515	54	36	1,600	¥	-
516	54	36	1,600	¥	-
517	54	36	1,600	¥	-
518	54	36	1,600	¥	-
2F-521	108	100	2,700	¥	-
522	108	100	2,700	¥	-
523	162	160	3,800	¥	-
524	162	160	3,800	¥	-
525	252	262	5,800	¥	-
3F-531	162	160	3,800	¥	-
532	162	160	3,800	¥	-
533	162	160	3,800	¥	-
534	54	30	1,600	¥	-
7号館					
2F-721	163	198	3,800	¥	-
722	109	120	2,700	¥	-
723	163	198	3,800	¥	-
724	163	198	3,800	¥	-
3F-741	163	209	3,800	¥	-
742	109	120	2,700	¥	-
743	372	446	8,000	¥	-
4F-761	249	300	5,800	¥	-
762	55	30	1,600	¥	-

建物名称 及び 教室番号	使用面積 ㎡	収容人数 人	貸付料 (時間単価) 円	時間	料金
11号館					
1F-1101	165	196	3,800	¥	-
1102	165	196	3,800	¥	-
1103	45	24	900	¥	-
1105	48	40	900	¥	-
2F-1106	320	374	8,000	¥	-
1107	34	18	900	¥	-
1108	180	210	3,800	¥	-
1109	47	24	900	¥	-
12号館					
1F-1211	52	53	1,600	¥	-
1212	108	100	2,700	¥	-
1213	108	98	2,700	¥	-
1214	108	100	2,700	¥	-
2F-1221	52	53	1,600	¥	-
1222	108	131	2,700	¥	-
1223	24	12	900	¥	-
1224	54	48	1,600	¥	-
1225	158	180	3,800	¥	-
1226	54	48	1,600	¥	-
3F-1231	52	53	1,600	¥	-
1232	108	131	2,700	¥	-
1233	43	24	900	¥	-
13号館					
1F-1311	117	137	2,700	¥	-
1312	117	136	2,700	¥	-
1313	322	352	8,000	¥	-
2F-1321	117	137	2,700	¥	-
1322	117	136	2,700	¥	-
1323	379	536	8,000	¥	-
3F-1331	195	248	3,800	¥	-
4F-1341	122	120	2,700	¥	-
講堂					
900	463	656	10,600	¥	-
学際交流ホール					
ホール	273	132	6,600	¥	-
18号館ホール					
ホール	246	196	7,400	¥	-
21KOMCEE West (注1, 注2)					
B1F-001	220	200	11,200	¥	-
002	185	108	-	-	-
003	225	-	11,500	¥	-
1F-101	184	-	9,400	¥	-
2F-201	112	25	5,700	¥	-
3F-301	91	25	4,600	¥	-
302	112	25	5,700	¥	-
303	186	45	9,500	¥	-
4F-401	112	25	5,700	¥	-
402	186	45	9,500	¥	-
5F-501	112	25	5,700	¥	-
21KOMCEE East					
B1F-011	293	247	14,700	¥	-
ホワイエ	328	-	16,400	¥	-
1F-112	44	40	-	-	-
113	126	102	-	-	-
114	154	102	-	-	-
2F-211	177	126	8,900	¥	-
212	206	156	10,300	¥	-
213	206	156	10,300	¥	-
214	206	156	10,300	¥	-

※1F-112,113,114は当面貸出対象外

電話回線使用料			
教室番号	日数	単価(円)	金額(円)
		10,000	¥

料金合計	¥	-
-------------	----------	----------

注1:21KOMCEE B1F-001:レクチャーホール
B1F-002:オープンスペースアリーナ
B1F-003:MMホール

教室収容人数・教室貸付料金表(学内)

【改定】令和6年1月1日

建物名称 及び 教室番号	使用面積 ㎡	収容人数 人	貸付料 (時間単価) 円	時間	料金
1号館					
1F-101	87	80	1,900	¥	-
102	58	48	1,900	¥	-
103	58	48	1,900	¥	-
104	87	80	1,900	¥	-
105	87	80	1,900	¥	-
106	87	80	1,900	¥	-
107	87	80	1,900	¥	-
108	87	80	1,900	¥	-
109	134	132	3,300	¥	-
112	87	80	1,900	¥	-
113	87	80	1,900	¥	-
114	58	40	1,900	¥	-
115	58	40	1,900	¥	-
116	58	40	1,900	¥	-
117	58	40	1,900	¥	-
118	58	40	1,900	¥	-
119	58	40	1,900	¥	-
120	58	40	1,900	¥	-
121	84	80	1,900	¥	-
122	84	80	1,900	¥	-
2F-149	58	48	1,900	¥	-
150	58	48	1,900	¥	-
151	58	48	1,900	¥	-
152	58	48	1,900	¥	-
153	58	48	1,900	¥	-
154	58	48	1,900	¥	-
155	58	48	1,900	¥	-
156	58	48	1,900	¥	-
157	87	80	1,900	¥	-
158	58	56	1,900	¥	-
159	134	132	3,300	¥	-
162	87	80	1,900	¥	-
164	116	112	3,300	¥	-
166	116	112	3,300	¥	-
3F-184	112	127	3,300	¥	-
192	149	169	3,300	¥	-
5号館					
511	108	100	3,300	¥	-
512	108	100	3,300	¥	-
513	108	100	3,300	¥	-
514	108	100	3,300	¥	-
515	54	36	1,900	¥	-
516	54	36	1,900	¥	-
517	54	36	1,900	¥	-
518	54	36	1,900	¥	-
2F-521	108	100	3,300	¥	-
522	108	100	3,300	¥	-
523	162	160	4,800	¥	-
524	162	160	4,800	¥	-
525	252	262	7,300	¥	-
3F-531	162	160	4,800	¥	-
532	162	160	4,800	¥	-
533	162	160	4,800	¥	-
534	54	30	1,900	¥	-
7号館					
2F-721	163	198	4,800	¥	-
722	109	120	3,300	¥	-
723	163	198	4,800	¥	-
724	163	198	4,800	¥	-
3F-741	163	209	4,800	¥	-
742	109	120	3,300	¥	-
743	372	446	10,100	¥	-
4F-761	249	300	7,300	¥	-
762	55	30	1,900	¥	-

建物名称 及び 教室番号	使用面積 ㎡	収容人数 人	貸付料 (時間単価) 円	時間	料金
11号館					
1F-1101	165	196	4,800	¥	-
1102	165	196	4,800	¥	-
1103	45	24	1,200	¥	-
1105	48	40	1,200	¥	-
2F-1106	320	374	10,100	¥	-
1107	34	18	1,200	¥	-
1108	180	210	4,800	¥	-
1109	47	24	1,200	¥	-
12号館					
1F-1211	52	53	1,900	¥	-
1212	108	100	3,300	¥	-
1213	108	98	3,300	¥	-
1214	108	100	3,300	¥	-
2F-1221	52	53	1,900	¥	-
1222	108	131	3,300	¥	-
1223	24	12	1,200	¥	-
1224	54	48	1,900	¥	-
1225	158	180	4,800	¥	-
1226	54	48	1,900	¥	-
3F-1231	52	53	1,900	¥	-
1232	108	131	3,300	¥	-
1233	43	24	1,200	¥	-
13号館					
1F-1311	117	137	3,300	¥	-
1312	117	136	3,300	¥	-
1313	322	352	10,100	¥	-
2F-1321	117	137	3,300	¥	-
1322	117	136	3,300	¥	-
1323	379	536	10,100	¥	-
3F-1331	195	248	4,800	¥	-
4F-1341	122	120	3,300	¥	-
講堂					
900	463	656	13,400	¥	-
学際交流ホール					
ホール	273	132	7,900	¥	-
18号館ホール					
ホール	246	196	8,600	¥	-
21KOMCEE West (注1, 注2)					
B1F-001	220	200	12,500	¥	-
002	185	108	-	¥	-
003	225	-	12,800	¥	-
1F-101	184	-	10,500	¥	-
2F-201	112	25	6,400	¥	-
3F-301	91	25	5,200	¥	-
302	112	25	6,400	¥	-
303	186	45	10,600	¥	-
4F-401	112	25	6,400	¥	-
402	186	45	10,600	¥	-
5F-501	112	25	6,400	¥	-
21KOMCEE East					
B1F-011	293	247	16,400	¥	-
ホワイエ	328	-	18,400	¥	-
1F-112	44	40	-	¥	-
113	126	102	-	¥	-
114	154	102	-	¥	-
2F-211	177	126	9,900	¥	-
212	206	156	11,500	¥	-
213	206	156	11,500	¥	-
214	206	156	11,500	¥	-

※1F-112,113,114は当面貸出対象外

電話回線使用料			
教室番号	日数	単価(円)	金額(円)
		10,000	¥

料金合計	¥	-
-------------	----------	----------

注1:21KOMCEE B1F-001:レクチャーホール
B1F-002:オープンスペースアリーナ
B1F-003:MMホール

教室収容人数・教室貸付料金表(減免)

【現行】

建物名称 及び 教室番号	使用面積 ㎡	収容人数 人	貸付料 (時間単価) 円	時間	料金
1号館					
1F-101	87	80	700	¥	-
102	58	48	700	¥	-
103	58	48	700	¥	-
104	87	80	700	¥	-
105	87	80	700	¥	-
106	87	80	700	¥	-
107	87	80	700	¥	-
108	87	80	700	¥	-
109	134	132	1,200	¥	-
112	87	80	700	¥	-
113	87	80	700	¥	-
114	58	40	700	¥	-
115	58	40	700	¥	-
116	58	40	700	¥	-
117	58	40	700	¥	-
118	58	40	700	¥	-
119	58	40	700	¥	-
120	58	40	700	¥	-
121	84	80	700	¥	-
122	84	80	700	¥	-
2F-149	58	48	700	¥	-
150	58	48	700	¥	-
151	58	48	700	¥	-
152	58	48	700	¥	-
153	58	48	700	¥	-
154	58	48	700	¥	-
155	58	48	700	¥	-
156	58	48	700	¥	-
157	87	80	700	¥	-
158	58	56	700	¥	-
159	134	132	1,200	¥	-
162	87	80	700	¥	-
164	116	112	1,200	¥	-
166	116	112	1,200	¥	-
3F-184	112	127	1,200	¥	-
192	149	169	1,200	¥	-
5号館					
511	108	100	1,200	¥	-
512	108	100	1,200	¥	-
513	108	100	1,200	¥	-
514	108	100	1,200	¥	-
515	54	36	700	¥	-
516	54	36	700	¥	-
517	54	36	700	¥	-
518	54	36	700	¥	-
2F-521	108	100	1,200	¥	-
522	108	100	1,200	¥	-
523	162	160	1,700	¥	-
524	162	160	1,700	¥	-
525	252	262	2,500	¥	-
3F-531	162	160	1,700	¥	-
532	162	160	1,700	¥	-
533	162	160	1,700	¥	-
534	54	30	700	¥	-
7号館					
2F-721	163	198	1,700	¥	-
722	109	120	1,200	¥	-
723	163	198	1,700	¥	-
724	163	198	1,700	¥	-
3F-741	163	209	1,700	¥	-
742	109	120	1,200	¥	-
743	372	446	3,500	¥	-
4F-761	249	300	2,500	¥	-
762	55	30	700	¥	-

建物名称 及び 教室番号	使用面積 ㎡	収容人数 人	貸付料 (時間単価) 円	時間	料金
11号館					
1F-1101	165	196	1,700	¥	-
1102	165	196	1,700	¥	-
1103	45	24	400	¥	-
1105	48	40	400	¥	-
2F-1106	320	374	3,500	¥	-
1107	34	18	400	¥	-
1108	180	210	1,700	¥	-
1109	47	24	400	¥	-
12号館					
1F-1211	52	53	700	¥	-
1212	108	100	1,200	¥	-
1213	108	98	1,200	¥	-
1214	108	100	1,200	¥	-
2F-1221	52	53	700	¥	-
1222	108	131	1,200	¥	-
1223	24	12	400	¥	-
1224	54	48	700	¥	-
1225	158	180	1,700	¥	-
1226	54	48	700	¥	-
3F-1231	52	53	700	¥	-
1232	108	131	1,200	¥	-
1233	43	24	400	¥	-
13号館					
1F-1311	117	137	1,200	¥	-
1312	117	136	1,200	¥	-
1313	322	352	3,500	¥	-
2F-1321	117	137	1,200	¥	-
1322	117	136	1,200	¥	-
1323	379	536	3,500	¥	-
3F-1331	195	248	1,700	¥	-
4F-1341	122	120	1,200	¥	-
講堂					
900	463	656	4,600	¥	-
学際交流ホール					
ホール	273	132	2,700	¥	-
18号館					
ホール	246	196	2,500	¥	-
21KOMCEE West (注1)					
B1F-001	220	200	2,200	¥	-
002	185	108	-		-
003	225	-	2,300	¥	-
1F-101	184	-	1,800	¥	-
2F-201	112	25	1,100	¥	-
3F-301	91	25	900	¥	-
302	112	25	1,100	¥	-
303	186	45	1,900	¥	-
4F-401	112	25	1,100	¥	-
402	186	45	1,900	¥	-
5F-501	112	25	1,100	¥	-
21KOMCEE East					
B1F-011	293	247	2,900	¥	-
ホワイエ	328	-	3,300	¥	-
1F-112	44	40	-		-
113	126	102	-		-
114	154	102	-		-
2F-211	177	126	1,800	¥	-
212	206	156	2,100	¥	-
213	206	156	2,100	¥	-
214	206	156	2,100	¥	-

※1F-112,113,114は当面貸出対象外

電話回線使用料			
教室番号	日数	単価(円)	金額(円)
		10,000	¥

注1:21KOMCEE
 B1F-001:レクチャーホール
 B1F-002:オープンスペースアリーナ
 B1F-003:MMホール

料金合計	¥	-
-------------	----------	----------

教室収容人数・教室貸付料金表(減免)

【改定】令和6年1月1日

建物名称 及び 教室番号	使用面積 ㎡	収容人数 人	貸付料 (時間単価) 円	時間	料金
1号館					
1F-101	87	80	800	¥	-
102	58	48	800	¥	-
103	58	48	800	¥	-
104	87	80	800	¥	-
105	87	80	800	¥	-
106	87	80	800	¥	-
107	87	80	800	¥	-
108	87	80	800	¥	-
109	134	132	1,500	¥	-
112	87	80	800	¥	-
113	87	80	800	¥	-
114	58	40	800	¥	-
115	58	40	800	¥	-
116	58	40	800	¥	-
117	58	40	800	¥	-
118	58	40	800	¥	-
119	58	40	800	¥	-
120	58	40	800	¥	-
121	84	80	800	¥	-
122	84	80	800	¥	-
2F-149	58	48	800	¥	-
150	58	48	800	¥	-
151	58	48	800	¥	-
152	58	48	800	¥	-
153	58	48	800	¥	-
154	58	48	800	¥	-
155	58	48	800	¥	-
156	58	48	800	¥	-
157	87	80	800	¥	-
158	58	56	800	¥	-
159	134	132	1,500	¥	-
162	87	80	800	¥	-
164	116	112	1,500	¥	-
166	116	112	1,500	¥	-
3F-184	112	127	1,500	¥	-
192	149	169	1,500	¥	-
5号館					
511	108	100	1,500	¥	-
512	108	100	1,500	¥	-
513	108	100	1,500	¥	-
514	108	100	1,500	¥	-
515	54	36	800	¥	-
516	54	36	800	¥	-
517	54	36	800	¥	-
518	54	36	800	¥	-
2F-521	108	100	1,500	¥	-
522	108	100	1,500	¥	-
523	162	160	2,200	¥	-
524	162	160	2,200	¥	-
525	252	262	3,300	¥	-
3F-531	162	160	2,200	¥	-
532	162	160	2,200	¥	-
533	162	160	2,200	¥	-
534	54	30	800	¥	-
7号館					
2F-721	163	198	2,200	¥	-
722	109	120	1,500	¥	-
723	163	198	2,200	¥	-
724	163	198	2,200	¥	-
3F-741	163	209	2,200	¥	-
742	109	120	1,500	¥	-
743	372	446	4,500	¥	-
4F-761	249	300	3,300	¥	-
762	55	30	800	¥	-

建物名称 及び 教室番号	使用面積 ㎡	収容人数 人	貸付料 (時間単価) 円	時間	料金
11号館					
1F-1101	165	196	2,200	¥	-
1102	165	196	2,200	¥	-
1103	45	24	500	¥	-
1105	48	40	500	¥	-
2F-1106	320	374	4,500	¥	-
1107	34	18	500	¥	-
1108	180	210	2,200	¥	-
1109	47	24	500	¥	-
12号館					
1F-1211	52	53	800	¥	-
1212	108	100	1,500	¥	-
1213	108	98	1,500	¥	-
1214	108	100	1,500	¥	-
2F-1221	52	53	800	¥	-
1222	108	131	1,500	¥	-
1223	24	12	500	¥	-
1224	54	48	800	¥	-
1225	158	180	2,200	¥	-
1226	54	48	800	¥	-
3F-1231	52	53	800	¥	-
1232	108	131	1,500	¥	-
1233	43	24	500	¥	-
13号館					
1F-1311	117	137	1,500	¥	-
1312	117	136	1,500	¥	-
1313	322	352	4,500	¥	-
2F-1321	117	137	1,500	¥	-
1322	117	136	1,500	¥	-
1323	379	536	4,500	¥	-
3F-1331	195	248	2,200	¥	-
4F-1341	122	120	1,500	¥	-
講堂					
900	463	656	6,000	¥	-
学際交流ホール					
ホール	273	132	3,300	¥	-
18号館					
ホール	246	196	3,000	¥	-
21KOMCEE West (注1)					
B1F-001	220	200	2,400	¥	-
002	185	108	-	¥	-
003	225	-	2,500	¥	-
1F-101	184	-	2,000	¥	-
2F-201	112	25	1,200	¥	-
3F-301	91	25	1,000	¥	-
302	112	25	1,200	¥	-
303	186	45	2,000	¥	-
4F-401	112	25	1,200	¥	-
402	186	45	2,000	¥	-
5F-501	112	25	1,200	¥	-
21KOMCEE East					
B1F-011	293	247	3,200	¥	-
ホワイエ	328	-	3,600	¥	-
1F-112	44	40	-	¥	-
113	126	102	-	¥	-
114	154	102	-	¥	-
2F-211	177	126	1,900	¥	-
212	206	156	2,300	¥	-
213	206	156	2,300	¥	-
214	206	156	2,300	¥	-

※1F-112,113,114は当面貸出対象外

電話回線使用料			
教室番号	日数	単価(円)	金額(円)
		10,000	¥ -

注1:21KOMCEE
 B1F-001:レクチャーホール
 B1F-002:オープンスペースアリーナ
 B1F-003:MMホール

料金合計	¥ -
-------------	-----

研究費の不正使用の注意喚起

過去に不正認定された事例に学び、不正使用とならないように注意しましょう。

<実態のない謝金編>

広島大学で発生した事例

- ✖ 教員は、研究室の学生を呼び出し、当該学生に授業や TA の予定が入っている時間を確認し、矛盾がないように架空の勤務日、時間を謝金実施計画書に記載させ、当該学生が実験補助の業務を実施したように装った。また、大学から振り込まれた謝金を現金で手渡すよう還流行為の指示を行った。学生から現金を受け取った後、研究室内に保管し、被験者に対する謝礼の購入に充てた。

岩手大学で発生した事例

- ✖ 教員が、指導学生に対して架空の勤務日時間を出勤表に記載させ、研究補助の業務を実施したように装った。また、大学から振り込まれた謝金を現金で手渡すように指示し、還流行為を行った。

早稲田大学で発生した事例

- ✖ 教員が、紙帳票である勤務報告書に実態のない学生の勤務記録を記入し、大学に対して架空請求を行った。大学から学生にアルバイト代が振り込まれた後、教員はメールまたは口頭で指示して、指定する金額を現金で研究室に持参させ、これを徴収するという還流行為を行った。

北九州市立大学で発生した事例

- ✖ 教員は、自己のガソリン代等の立替分を補てんするために、学生に対して、従事実態のない研究補助報酬を請求するように指示し、その後学生の学会発表出張の旅費関連に充当するという名目で、その研究補助報酬を還流させた。

【補足】

謝金は実態に基づいて支給すべきものです。還流行為は、本人の同意の有無にかかわらず、社会的に不適切な行為とされます。「あり得ない」と思われるような事例ですが、謝金だけでなく、雇用でも似たような事例が発生しており、別途紹介します。

文科省 HP に記載されている過去の研究機関における不正使用事案

https://www.mext.go.jp/a_menu/kansa/houkoku/1364929.htm

追試験科目担当教員 各位

東京大学教養学部長

2023年度S Semester (S2ターム) 追試験の実施について

標記のことについて、下記のとおり実施しますのでご協力をお願いします。

なお、追試験願登録締め切り後に、申込者のいない教員に関しましては、別途メールでご連絡いたします。

記

1. S Semester・S2ターム追試験の概要

科目名	日時	受験資格
外国語 (英語一列)	実施時期 1 9月19日(火)~25日(月) ※各部会に照会のうえ決定します。	A・B
外国語 (英語以外)		A・B
力学		A
熱力学		A
化学熱力学		A
生命科学 I		A
情報		実施時期 2 10月2日(月)~5日(木) ※各部会に照会のうえ決定します。
微分積分学①	A・C	
線型代数学①	A・C	

2. 追試験該当者

- 受験資格A: 定期試験を病気・事故などの不測の事態により欠席した者で、審査のうえ受験が許可された者。
- 受験資格B: 定期試験を特別な事由により欠席する予定のある者で、審査のうえ受験が許可された者。
- 受験資格C: 定期試験を欠席した者または成績が「不可」だった者で、受験を希望する者。

3. 追試験の問題提出締切

【実施時期1】の科目: 9月12日(火) 正午【厳守】

【実施時期2】の科目: 9月25日(月) 正午【厳守】

下記のフォームより電子ファイルにてご提出ください。

【追試験問題提出フォーム】 <URL>

※ファイル名を「授業科目名 (追試) _担当教員名」としてご提出ください。

なお、追試験は下記のとおり実施します。

- ① 試験時間は90分(外国語、情報、化学熱力学は60分)
- ② 答案用紙は3種類からお選びください。
(B4判両面1枚、A4判両面2枚綴り1冊、A4判両面3枚綴り1冊) 追加配付は不可。
- ③ 計算用紙はB4判1枚
- ④ 持込は全て不可

4. 採点報告の登録締切

10月12日(木) 正午【厳守】 (UTASからの登録をお願いします。)

成績は100点満点で採点し報告願います。教務課で上限50点(受験資格Aの者は上限75点)に処理します。

【参考】学生のスケジュール (予定)

- ・追試験願(受験資格A)の申請期間 2023年8月2日(水)11:00~8日(火)16:00
- ・追試験願(受験資格B)の申請期間 2023年7月3日(月)11:00~7月7日(金)16:00
- ・追試験願(受験資格C)の登録期間(UTAS) 2023年9月11日(月)11:00~9月15日(金)16:00
- ・追試験成績表閲覧(UTAS) 10月19日(木)~
- ・成績評価の確認受付 10月19日(木)~20日(金)

To instructors in charge of courses intended for make-up exams

Dean, College of Arts and Sciences
The University of Tokyo

Guidelines for Make-up Exams S Semester (S2 Term)2023

Make-up exams for PEAK courses will be held as follows. Please prepare exam papers and exam-related materials.

1. Eligible Courses

Mathematics I②(PEAK), Mathematics II②(PEAK),
Introductory Physics (PEAK), Introductory Chemistry (PEAK)

2. Eligible Students

Students who were absent from the Regular Exams or who received a grade of “F/Fail” (Criteria A, C)

3. Outline for the Make-up Exam

After the registration period for the make-up exam, the Academic Affairs Division will notify you and PJB (PEAK Junior Division Bukai) by e-mail if there are any applicants. If you are going to conduct the exam in-person (face-to-face), the Academic Affairs Division will set the exam date and time **between Monday October 2, and Thursday, October 5.**

If you are going to evaluate in other methods such as essays, you do not have to submit the assignments to the Academic Affairs Division. If you are going to conduct the exam in-person, please submit the exam paper to the PEAK/GPEAK Section. The deadline for submitting exam papers will be provided separately.

4. Deadline for Grade Report

Noon on Thursday, October 12 [Strictly Observed] (Please register on UTAS)

Please give a grade with a maximum score of 100 points. The grades will be adjusted to a maximum score of 50 points (75 points for Criteria A) by the Academic Affairs Division. (Points exceeding the designated maximum scores will be cut off.)

<Note: schedule for students>

- ◆ Registration for Make-up Exams (Criteria A): Wed, Aug 2 to 4:00 p.m. on Tue, Aug 8
- ◆ Registration for Make-up Exams (Criteria C): Mon, Sep 11 to 4:00 p.m. on Fri, Sep 15
- ◆ Notification of Grade on UTAS: Thu, Oct 19
- ◆ Submission of Grade Confirmation Request: Thu, Oct 19 to Fri, Oct 20

第10期 運営諮問会議 委員名簿

任期:2023年7月1日～2025年6月30日

氏名	役職
<u>秋田 夏実</u>	みずほフィナンシャルグループ執行役（グループCPO兼グループCCuO） 兼 みずほ銀行 常務執行役員/みずほ信託銀行 常務執行役員 /みずほ証券 常務執行役員
<u>石井 洋二郎</u>	東京大学名誉教授（元教養学部長、元東京大学理事・副学長） 中部大学特任教授
氏岡 真弓	朝日新聞 社会部 編集委員
<u>遠藤 洋路</u>	熊本市教育長
武田 洋子	三菱総合研究所 研究理事 シンクタンク部門副部門長 兼 シンクタンク部門統括室長/政策・経済センター長
板東 久美子	東京大学経営協議会委員 日本赤十字社常任理事

第1章 特定事業の選定に関する事項

1 事業内容に関する事項

(1) 事業名称

東京大学（駒場Ⅰ）図書館（Ⅱ期）整備等事業

(2) 事業に供される公共施設の種類

教育・研究施設（大学図書館）

(3) 公共施設等の管理者等の名称

国立大学法人東京大学総長 藤井 輝夫

(4) 事業目的

駒場図書館・総合文化研究科図書館（以下、「駒場図書館」という。）は、大学が本郷・駒場・柏の各キャンパスに置く拠点図書館のひとつとして全学の学習図書館機能を担うとともに、総合文化研究科・教養学部の研究図書館機能も兼ね備えた図書館である。

この駒場図書館における配架スペースの不足、全学的な総合的教育改革への対応の要請、社会と大学との接点としての図書館機能充実の必要を背景として、大学は、その理念・基本方針たる「UTokyo Compass」に沿う機能強化を実現するため、既存の駒場図書館（以下、「図書館（Ⅰ期）」という。）に新たな図書館部分を増築（以下、増築部分を「図書館（Ⅱ期）」といい、完成後の両施設を合わせて「本施設」という。）することとした。

今回の増築の目的は、第一に、ラーニング・commonsの新設等を通じて、多様な思考力の交差点として「学知のハブ」を形成する、第二に、従来の大規模の聴衆を対象とした講演型のホール・イベントではなく、小規模の対話型のスタジオ・イベント（人文・社会・自然科学の諸分野のプレゼンテーション（研究発表）、対談、パネル・ディスカッションなど）を対面聴衆とオンライン視聴者の双方に提供できる多目的スペースを新設するなどして、たえず変化する社会の課題に向き合う「持続可能な知の発展」を図る、そして第三に、キャンパス内の学術資料の集約などにより学術情報基盤の学際統合を実現することにある。また、学術資料の集約は、各建物に有効スペースを生み出し活用する余地を与えることになる。

本事業は、PFIの導入により、財政負担の縮減並びに民間資金、経営能力及び技術的能力の活用を図るため、PFI法に基づき、本施設の設計・建設・維持管理を効率的かつ効果的に行うことを目的として実施するものである。

(5) 事業の範囲

本事業は、PFI法に基づき、選定事業者が図書館（Ⅱ期）を設計・建設し、本施設の維持管理を遂行することを、本事業の業務範囲とする。選定事業者が遂行する事業の範囲を越える本施設の運営及び本施設内で行われる教育・研究に係る業務については、大学が行う。

本事業において、選定事業者が行う主な事業の範囲は、以下のとおりとする。なお、具体的な事業の範囲等は、要求水準書において提示する。

研究者情報管理システム (E-rid)

簡易操作手順書

2023年1月ORG



東京大学
大学院総合文化研究科・教養学部
The University of Tokyo, Komaba
Graduate School of Arts and Sciences, College of Arts and Sciences

1. E-ridの初期設定について

目次

1. E-ridの初期設定について

1.1 接続URL

1.2 ログイン画面

1.3 プロフィールの修正

2. E-ridの情報更新のためのresearchmap設定について

2.1 所属機関事務担当者からの編集権限

2.2 AIの活用設定

2.3 AIで自動的に収集しない情報の更新

3. その他のお願い

1.1 接続URL

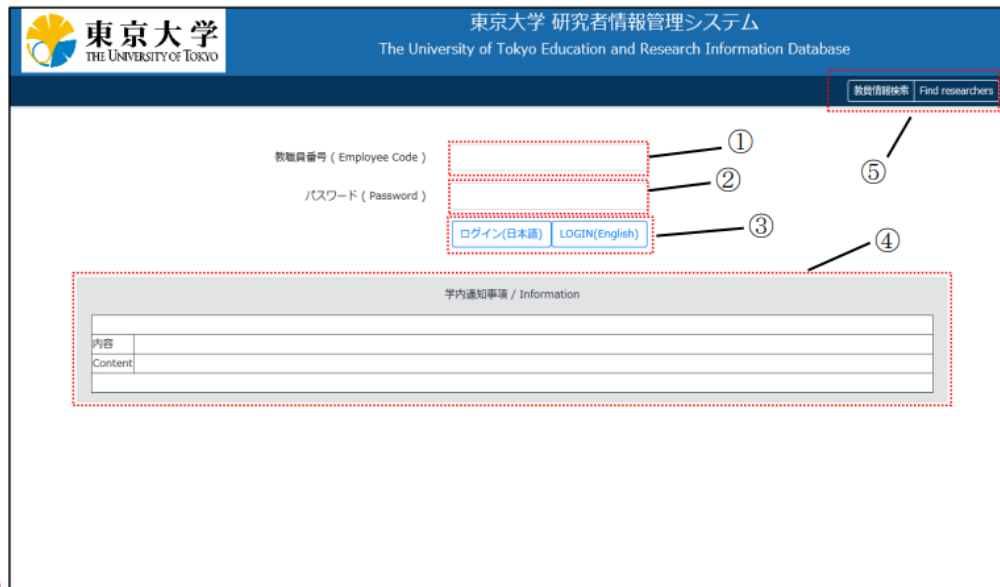
- ▶ 研究者情報管理システムに接続する際は、下記の URL をブラウザのアドレスに指定してください。

<https://researchers.adm.u-tokyo.ac.jp/>

- ▶ 上記 URL にてアクセスすることにより、研究者情報管理システムのログイン画面が表示されます。ログイン画面の詳細は、「2.ログイン画面」を参照してください。
- ▶ 一番最初にログインする際の教職員番号とログイン用パスワードは、ともに共通ID10桁です。セキュリティの観点から、なるべく早くパスワードの変更をお願いいたします。

1.2 ログイン画面

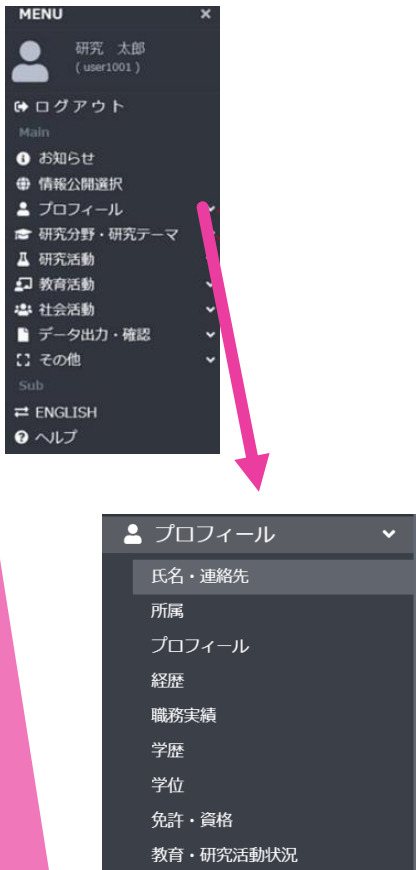
- ▶ 研究者情報管理システムのログイン画面が表示されます。教職員番号・パスワードを入力し、ログインボタンをクリックください。
- ▶ 初期パスワード（共通ID10桁）入力後、左端のメニュー「その他」→「パスワード変更」よりパスワード変更にて**必ず各人固有のパスワードに変更**してください。
(※できるだけ複雑なものにし、変更したパスワードは忘れず自己管理をお願いします。)



- ① 教職員番号を入力します。
- ② ログイン用パスワードを入力します。
- ③ 教員番号、パスワードが入力された状態でログインボタンをクリックすることにより、登録画面の初期画面(お知らせ画面)が表示されます。
- ④ 学内通知事項エリア：システム管理者からの連絡事項等が表示されます。
- ⑤ 教員情報検索画面が別画面で表示されます。

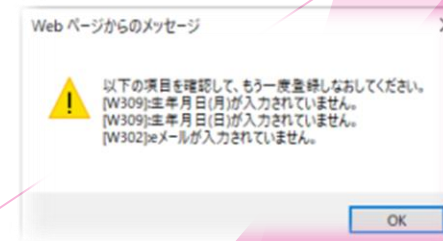
1.3 プロフィールの修正

- ▶ 左端のメニュー「プロフィール」→「氏名・連絡先」「所属」の情報を確認し、適宜修正を行ってください。



The screenshot shows the '氏名・連絡先' (Name and Contact Information) editing page. A red dashed box highlights the form fields. A green '登録' (Register) button is at the top right, with a circled '2' next to it. A circled '1' points to the '氏名 (公開)(r-map)' field. The form includes fields for: 氏名 (姓, 名), 姓 (ケンキョウ), 名 (タロウ), 姓 (ケンキョウ), 名 (太郎), 姓 (kenkyo), 名 (taro), 通称の別名 (日本語, 英語), 生年月日 (公開)(r-map)(必須)(文科書) (西暦 1970 年(必須) 12 月(必須) 03 日(必須)), 性別 (公開)(r-map)(必須)(文科書) (男, 女, 未選択), 国籍 (文科書), 現住所 (日本語, 英語), 連絡先住所 (日本語, 英語), 電話番号(外線) (公開), Fax番号 (公開), 公開用メールアドレス, eメール (公開)(r-map)(必須), 携帯メール (r-map), その他のメール (r-map), URL (公開)(r-map), and 大学院における研究指導担当者の有無 (大学院).

- ① データ入力画面内の各入力項目にデータを入力してください。
- ② データ入力完了後、画面内の上部にある【登録】ボタンをクリックしてください。
- ③ 【登録】ボタンをクリックした際、データの入力に問題がある場合はメッセージが表示されます。表示されたメッセージに従ってデータを修正してください。



2. E-ridの情報更新のための researchmap設定について

researchmap の情報を E-ridに効率的に読み込むために、researchmapの情報更新を実行するとともに、次ページからの設定がされていることを確認してください。

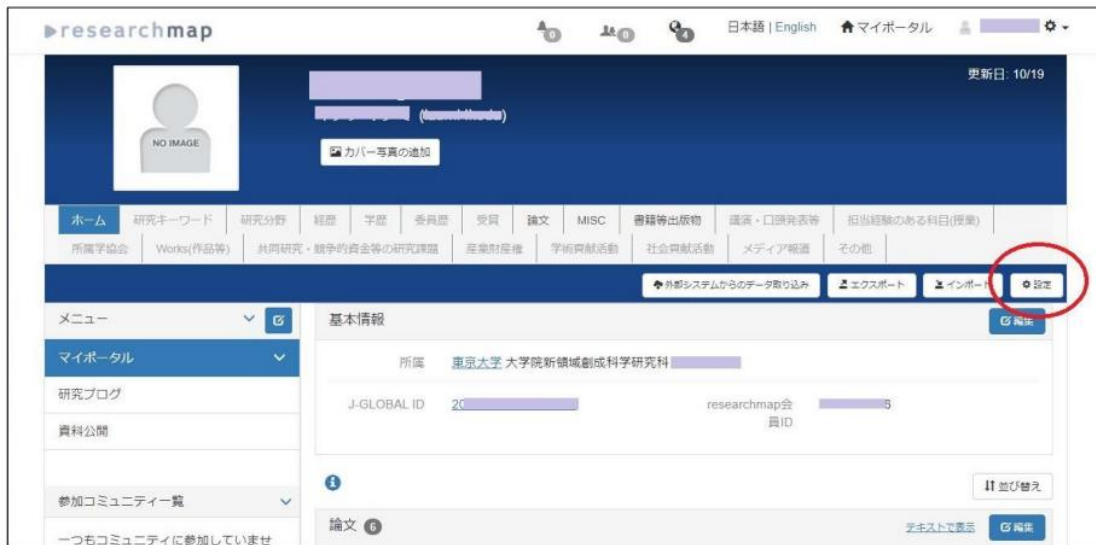
researchmap のアカウントがない場合、まずは新規登録についての注意事項を確認し、アカウント登録をしてから先に進んでください。

<https://researchmap.jp/public/account>

2.1 所属機関事務担当者からの編集権限

- ▶ researchmap ログイン後、マイポータル画面から「設定」をクリック、「権限設定」画面へ進み、①「所属機関事務担当者による編集権限」の「編集を許可する」

※researchmap から E-rid への読み込みを可能にする事であり、所属機関事務担当者（東大本部担当者）が登録者の情報を自由に編集することではありません。またこれにより非公開の設定がなされている情報が公開されることもありません。



2.2 AIの活用設定

- ▶ ②「AIによる反映」の「AIを活用する」にチェックを入れ、③ページ最下部の「決定」をクリックして設定を完了させる。
- ▶ researchmap は研究業績情報を効率的に収集するために導入された仕組みであり、利用を推奨します。
- ▶ 自動的に反映するか、逐次ご本人が確認するかはご自身で選択ください。
- ▶ 共著者設定などを適切に行うことで、AIによる収集の精度を上げることができます。

基本情報、業績情報の公開情報のみの表示

② AI

AIによる反映
(AIがサジェストした結果であることを明示した上で業績として公開する)

AIを活用する AIを活用しない

AIの推薦を自動的に反映する
反映する前に本人が確認する

AIの活用の範囲

AIが取得した情報を信頼し、本人が登録した内容の不備（タイポ等）の修正を許可する

本人が登録した内容を優先し、AIに修正はさせない。不足している情報の補完だけを許可する

× キャンセル 決定 ③

© 2017 researchmap 利用規約 独立研究開発法人 科学技術振興機構

2.3 AIで自動的に収集しない情報の更新

- ▶ researchmap の AI は論文データベースからの情報収集はしますが「講演・口頭発表等」「受賞歴」においては AI の活用がなされないため、自身で情報登録をしてください。E-rid に情報がある事が重要ですので、E-rid への直接入力、その他データベースからの取込や.csv ファイルの読込をしてくださることも結構です。
- ▶ 「講演・口頭発表等」のある程度の情報は、[KAKEN](#) 内自身のアカウントにある「研究成果」のタブから.csv ファイルでダウンロードし、フォーマットを合わせればそのまま E-rid に読み込むことができます。

3. その他のお願い

- ▶ researchmapの情報更新は、各自で定期的に確実に行ってください。URAが定期的にresearchmapからE-ridへのデータの取り込みを一括して行います。
- ▶ 論文や書籍・出版物等の査読の有無は、researchmap 上でも必ず明記してください。
- ▶ E-ridは、researchmap のほか、JGlobal、KAKEN などとも連携し、各業績タイトルの句読点や空白の有無で異なるものとして重複読入する場合があります。E-rid の登録情報をご確認の上、重複等がないか定期的に精査してください。

<問い合わせ先>

総合文化研究科・教養学部

URA 浦野みづき

研究者情報管理システム (E-rid) 窓口

(火・水・木・金 08:30-16:15)

メール : mizuki-urano@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

参考資料 :

- ✓ 研究者情報管理システム
簡易操作手順書 (教員用) (Rev 1.0)
- ✓ 新領域創成科学研究科
学術経営戦略支援室作成資料

2023年夏 駒場 I キャンパス節電のお願い 2

これまでの背景

- ◆ 電気の基本料金は、
1時間あたりの電力使用量の最大値に依存
- ◆ **電力使用量の約1/3が空調**によるもの
- ◆ 同量の電力を安く使うには、
ピーク電力を小さくすることが本質的
→ ピークは7月の暑い日（と冬の寒い日）に来る

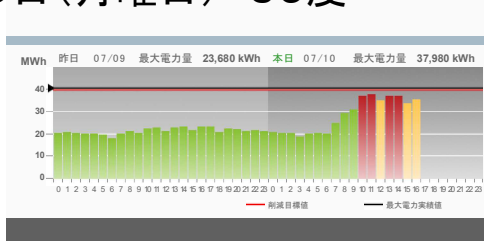
契約電気量の変遷：

3,864 kWh (2021) → 3,912 kWh (2022) → (4,029 kWh (20230714時点))

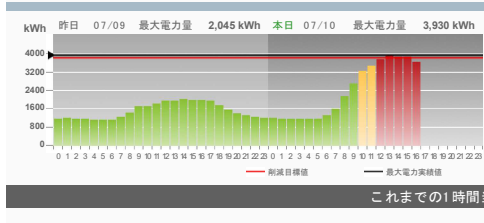
先週(7月10日の週)の電力量超過の状況

7月10日(月曜日) 35度

本郷



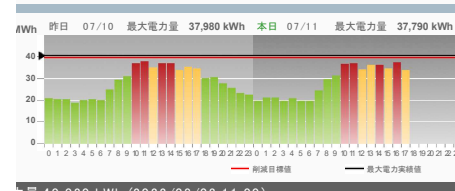
駒場1



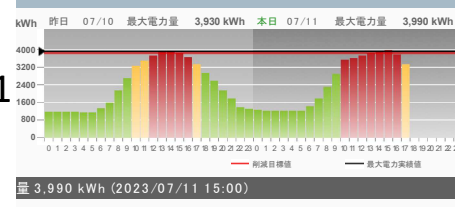
18 kWh超過
3930 kWh

7月10日(火曜日) 35度

本郷



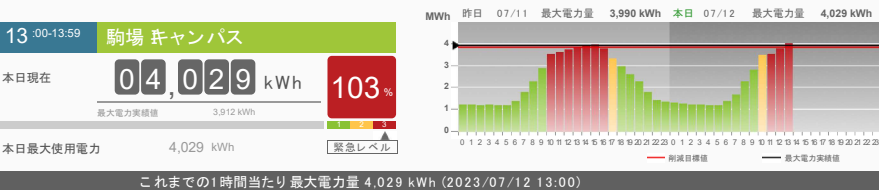
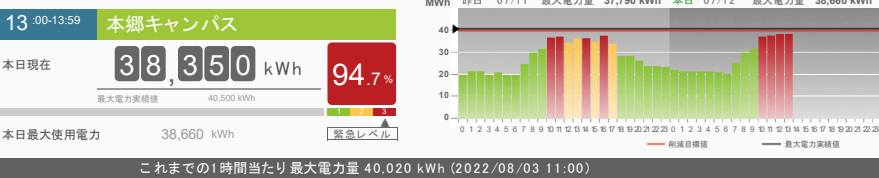
駒場1



88 kWh超過
4000 kWh

7月12日(水曜日) 36度

キャンパス別の電力使用状況



通常のメール等での協力依頼に加えて

7月10日(火曜日): 16号館への放送(危険予想が出たため)

117 kWh超過
4029 kWh



基本料金は約18万円UP
契約超過金: 約33万

超過要因

- (梅雨明け前の)季節外れの暑さが続いた。
- コロナが5類になり通常活動が活発化した。
- キャンパス内の建物のエアコンのエンジンが都市ガスから電気で駆動する形に変わっていた。
(昨年度との違いとしては情報教育棟が都市ガスから電気に変更された)

電気代を抑制する対策

- 学生へのUTAS等を介した協力依頼(少人数で大きな部屋を使わない)
- **120人以上教室の空調の遠隔操作**
(施設チーム、関東コーワ 連絡先:080-3366-8506)
ここ数年の一番暑いときや一番寒い時期だけでなく**1年を通じて**実行する。
→電気利用量を一年トータルで見た際に減らすことを目指す。
- 太陽光発電システムの導入
最大500 kWhの電力供給できる太陽光発電システムが2023年12月3日に発電開始する予定
- 電力が逼迫するタイミングでの電力を大きく消費する機械の稼働を見合わせる(あくまでも可能な限り)

～節電対策をよろしくお願いします～

① エアコン(講義室):

温度設定が下がっている場合には、適切な温度に調整。講義棟の建物の入り口の扉・講義室の窓が開いていたら閉めて空調効率を高める。

② エアコン(居室等):

日中に部屋を継続使用する場合は、午前中から運転し、夕方まで連続運転するようにして下さい。冷房をオンにした直後は大量の電力を使用しますが、連続運転中は使用電力を抑えられるためです。温度設定は下げ過ぎず(26°C以上推奨)、暑い場合は扇風機等を併用して下さい。数時間部屋を離れる際にはエアコンを消し、帰宅時には消し忘れのないようお願いいたします。

③ 研究・実験:

特に電力を消費する実験は、可能な限り、ピーク時間帯(10-16時)を外す。

④ 不要な機器:

電源を切る、無駄な照明はつけない。

⑤ 緊急時は放送等で連絡します

AL

NEWSLETTER

アクティブラーニングニュースレター

Volume 9, No. 1
June 2023

～ 目次 ～

- ◆ アクティブラーニングニュースレター(p.1)
- ◆ アクティブラーニングとは? (p.1)
- ◆ EX 部門 (旧アクティブラーニング部門) 活動報告
 - ・ アクティブラーニング型授業モデルの開発 (p.1)
 - ・ ワークショップの開催(p.4)
- ◆ 今後の活動予定(p.5)

◆ アクティブラーニングニュースレター

学習効果を高める方法の一つとしてアクティブラーニングがあります。アクティブラーニングは駒場アクティブラーニングスタジオ (KALS、東京大学駒場キャンパス 17号館 2階) といった特別な設備があるところで行うこともありますが、通常の教室でも行えます。授業の一部にアクティブラーニングをとり入れる際に、参考になるように、本ニュースレターでアクティブラーニングのさまざまな方法や関連する話題をお知らせいたします。気になる記事がありましたら、東京大学教養学部附属教養教育高度化機構 Educational Transformation(EX)部門 (旧アクティブラーニング部門と初年次教育部門・自然科学教育高度化部門が統合する形で 2023年4月に新設) までお問い合わせください。(若杉)

◆ アクティブラーニングとは?

アクティブラーニングとは、データ・情報・映像などのインプットを、読解・ライティング・討論を通じて分析・評価し、その成果を統合的にアウトプットする能動的な学習のことです。

講義でのインプットに対して、試験や課題でアウトプットすることは普段から行われていると思いますが、それだけで深い理解を獲得させるのはなかなか困難です。アクティブラーニングでは、その途中に読解・ライティング・討論など、学生が中心になって行う活動を取り入れることにより、より深い理解を獲得させるものです。一人で読んだ時は気がつかなかった観点を他の学生の見方から知ったり、他の学生の発表に質問することでより広がりをもって問題を捉えることができるようになります。

単に討論をすればアクティブラーニングになるわけではなく、どのように進めれば有効かについてさまざまな知見があります。このニュースレターでは、そのような方法をいくつか紹介していきます。(若杉)

◆ EX 部門 (旧アクティブラーニング部門) 活動報告

2022年度後半の旧アクティブラーニング部門の活動を紹介します。

アクティブラーニング型授業モデルの開発

EX 部門では、授業の開講を通して、アクティブラーニング型授業のモデル開発や試行を行っています。2022年度 A セメスターは、4 授業を開講しました。各授業の概要やアクティブラーニング型授業モデルについて得られた知見を簡単に紹介します。

(1) 全学自由研究ゼミナール/高度教養特殊演習:

模擬国連で学ぶ国際関係と合意形成 II

「模擬国連で学ぶ国際関係と合意形成 II」(担当教員: 中村長史) では、模擬国連 (Model United Nations) というアクティブラーニングの手法を用いて、国際問題の解決法を考えました。多様な利害・価値観に配慮することの重要性を理解するには体感してみることが早道ですが、模擬国連の会議では、一人一人が米国政府代表や中国政府代表などの担当国になりきって国際問題について話し合います。立場を固定されている点ではディベートと同様です。しかし、相手を論破することで勝利を目指すディベートと異なり、模擬国連会議では合意形成が目的であるため相手の利害・価値観を尊重したうえでの妥協が重要になります。この点を重視し、授業内では対立の激しい議題・担当国を設定して、ロールプレイ・シミュレーションに取り組みました。2019年度より毎学期開講しており、今回は7期目の開講となりましたが、受講者は15名(1年生8名、2年生5名、3年生1名、4年生1名)でした。

授業は、2部構成としました。第1部「シリアの人道危機」(第2~7回)では、2010年代を通して続いているシリア人道危機についての国連安全保障理事会のシミュレーションを行ないました。第2回で議

題概説を行ない、担当国を決定した後、第3回から第6回まで会議を行ないました。実際の国連安全保障理事会の構成国のうち、中国（シリア政府擁護派）、フランス（シリア政府批判派）、ロシア（擁護派）、英国（批判派）、米国（批判派）の5つの常任理事国に「中間派」の南アフリカを加えた6ヶ国を設定し、1ヶ国を2・3人で担当しました。現実の会議と同様、拒否権が行使され、決議案は廃案となりました。

第7回では、まず、このような会議の内容について、担当国の立場から振り返り、自国の利益をどの程度反映できたか、より適切な政策立案・議論・交渉等はなかったかを検討しました。そのうえで、個人の立場から会議を振り返り、国際社会全体の利益のために、どのような方法があり得る（た）のかを議論しました。2つのふりかえりを踏まえて、受講者は授業外でレポート1に取り組みました。

② 【外交政策】

(1) あなたの担当国は、これまでのシリア関連の会議において、どのような態度をとってきたか？

- ・2011年10月4日の会議では、「暴力の即時停止」を求めて安保理決議草案を執筆した
- ・そこで強調されていたのは、人道的危機に対して平和と安全の守護者たる安保理が重要な役割を果たさなければならず、という問題意識

(2) あなたの担当国は、これまでのシリア以外の人道危機関連の会議において、どのような態度をとってきたか？

- ・コソボの会議においては、安保理会議では対話による解決を模索する態度を買っているが、1998年10月には緊急事態では"action"も必要であると述べている（NATOとして軍も派遣している）

(3) (1) (2)での回答を踏まえ、今回の会議でどのように取り組めば、過去の政策との継続性が得られるだろうか？

- ・国際法で認められる範囲での軍事介入というのがポイントで、紛争が起こっている地域の当局による人権侵害や人道的危機の「明らかな証拠」があるときには軍事的手段も厭わない姿勢を示している
- ・安保理の役割として「平和と安全の守護者である」ということは何度も公式発言で語っており、その点は今回も強調していくことが必要であろう

(4) 今回の会議で外交政策の変更を行う蓋然性はあるか？あるとすれば、それは、どのような変更か？

- ・特に変更する必要はない
- ・ただし、リビアでの軍事介入の失敗があり、「アラブの春」に介入することに関して一度失敗していることは無視しきれないだろう

2

学生が作成した Policy Paper の例（会議前の準備）

第2部「女性、平和、安全保障」（第8～12回）では、「テーマ別会合」（国連安全保障理事会では、シリアのような特定の事態のみならず、「テーマ別会合」と呼ばれる一般的な議題も扱われます）の一つである「女性、平和、安全保障」のシミュレーションを行ないました。第8回で議題概説を行ない、担当国を決定した後、第9回から第11回まで会議を行ないました。実際の国連安全保障理事会の構成国のうち、中国（現実世界では棄権）、フランス（賛成）、ロシア（棄権）、英国（賛成）、米国（賛成）の5つの常任理事国にドイツ（賛成）、インドネシア（賛成）を加えた7ヶ国を設定し、1ヶ国を2・3人で担当しました。多様な文化・宗教・利

害を持つ国々の間でリプロダクティブヘルス/ライツや、安保理で人権問題を話し合うことの是非等をめぐって議論・交渉が繰り返されましたが、現実世界とは異なり、全会一致で決議案が採択される結果となりました。第12回では、シリアの際と同様、担当国の立場と個人の立場から、それぞれふりかえり、授業外でレポートに取り組みました。

第13回のおまとめでは、各自が模擬国連から学んだことについてふりかえりました。受講者からは、「西側と東側など、どうしても簡単な構図を思い描いてしまうが、実際はもっと多様な立場があり、一枚岩では無いことを学んだ」、「各国首脳の演説について今までは抽象的で曖昧な発言と思っていたが、リサーチをしてみると、その演説のなかにその国の方針や思想が反映されていることを学んだ」、「全ての国が自国の利益を最大化しようとするとしても議論が平行線になってしまうことがあるということを学んだ。そのため、合意を形成するためにはお互いがボトムラインを基準に多少の妥協を行う必要があると感じた」、「ただ国際関係や合意形成について学ぼうとするよりも、ある特定の国の大使の立場に立って会議に参加することで、より深くそれらを学ぶことができると感じた。Policy Paperも多様な価値観を意識しながら作成することができたので国際関係の理解に役立った」といった感想が寄せられました。これらの感想ならびにレポートの内容から察するに、授業の目的が一定程度達成されたようであり安堵しました。

一方、「ホワイトボードで行った振り返りに加えて会議後などの他国の Policy Paper を参照できると、議題についての多面的な捉え方がより深まり学習効果がより大きかったかもしれない」といった意見も寄せられました。教員としてもなるほどと思わされる提言であり、2023年度の授業で早速採り入れてみたいと考えています。（中村）

(2) 全学自由研究ゼミナール/高度教養特殊演習: 国際紛争ケースブックをつくろう

「国際紛争ケースブックをつくろう」（担当教員：中村長史）では、複数の国際紛争の経緯や構図、原因等についてグループで調査し、最終的にケースブックを作成することを目指しました。その過程で、ある国際紛争に対する見方は決して一様ではないことに気づき、できる限り客観的に各紛争を捉えるための方法を習得してほしいと考えました。担当する紛争の5W1H、すなわち主体（who）、争点（why）、時期区分（when）、民族・宗教・政治体制・経済状況（where）、当事者・第三者の行動（what & how）について正確に理解するために複数の文献・資料にあたって丁寧に情報収集をするのはもちろんのこと、他の紛争を担当するクラスメイトとの意見交換を通じて、紛争間の関係性や前例が後例に与える影響についても学ぶことを期待しました。2020年度以来開講しており今回が3度目の開講

となりましたが、受講者は12名（1年生7名、2年生2名、3年生2名、4年生1名）でした。

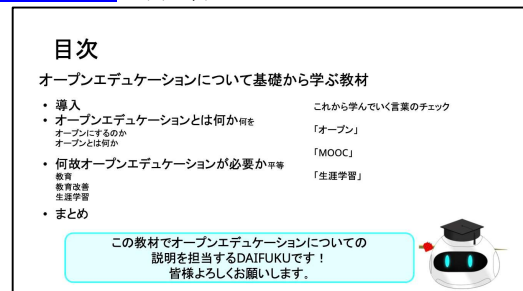
授業は、2部構成としました。第1部「ケースブックの改訂」（第2～7回）では、いきなりケースブックをゼロから作ることは難しいので、まずは練習として、昨年度の受講生が作成したケースブックの改訂から始めることにしました。ソマリア、ルワンダ、ボスニア、アフガニスタンの4つの紛争を扱うグループに分かれ、グループ内・グループ間のディスカッション、教員・TAからのフィードバックを繰り返し、ケースブックの改訂を進めていきました。第7回では、グループごとに、その最終成果を報告しました。

第2部「ケースブックの作成」（第8～12回）では、改訂作業で学んだことを踏まえて、ケースブックをゼロから作る段階へと入っていきました。イラク、東ティモール、ミャンマー、シリアの4つの紛争を扱うグループに分かれ、グループ内・グループ間のディスカッション、教員・TAからのフィードバックを繰り返し、その最終成果を第12回で報告しました。改訂作業の段階に比べて、事例（紛争）間の関係にも目を向けるグループが多くなるなど、確かな成長が感じられました。

第13回のまとめでは、各自がケースブックづくりから学んだことについてふりかえりました。受講者からは、「前後に起こった異なる紛争間の関係を学ぶことができ印象深かった。大局的な視点・細かい視点を両方持ち合わせてバランス感覚を持ってまとめることが重要だと感じた」、「紛争を考えると、どんなに複雑な紛争を考える上でも、5W1Hに立ち返ることで整理することができることを学んだ」、「紛争の分析の手法（5W1H）を今後も活用できると感じました」、「マイクロレベルから多面的に把握するために、今後は社会心理的な側面（憎悪の増長など）を勉強したい」といった感想が寄せられました。所期の目的が一定程度達成されたものと安堵するとともに、2024年度以降（2023年度は別授業を開講予定）に向けてさらなる改善を図っていきたいと考えています。（中村）

た。2021年度の授業では、前半の概論パートと、後半の授業づくりとが分離しているように思われたため、橋渡しの目的で取り入れました。受講生一人ひとりがmiro (<https://miro.com/ja/>) でボードを持ち、そこに授業で扱った内容のキーワードや事例などを書き込みました。第13回の授業終了時、受講生にアンケート調査を行ったところ（回答者20名）、「授業の前半で使用したコンセプトマップは、教材づくりで役立ちましたか」については、とても役立った5%、ある程度役立った60%、あまり役立たなかった35%という結果が得られました。その理由として「自身の理解を記録しておくことで講義スライドにはない授業での情報についても考慮することができたから」、「何を教材で扱うか洗い出す作業の際見返すことで、大事だと自分が思ったポイントを簡単に思い出せたから」といった肯定的な意見が見られた一方、「考えの整理には使えたが、更新する癖があまりつかなかった」、「コンセプトマップを見るというよりもスライドや資料を見直すほうが個人的に好きだったため」という使用しなかった理由が挙げられました。前半・後半の接続のためにコンセプトマップを取り入れたものの十分に機能していなかった点が見られたため、授業設計や取り入れ方を見直して、改善できればと思います。

また、受講生が作成した教材を部門ウェブサイトで公開しました。至らぬ点もあるかと思いますが、ぜひご覧いただき、またご自身のオープンエデュケーションに関する学習に役立てていただければ幸いです。<https://dalt.c.u-tokyo.ac.jp/classes/student-report/a3718/>（中澤）



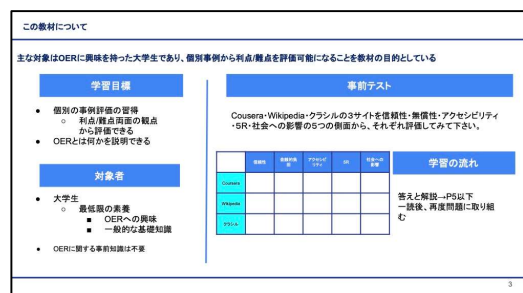
学生が作成した教材① (By 中村莉久 CC BY NC4.0)

(3) 全学自由研究ゼミナール/高度教養特殊演習:

「オープン教材」をつくらう！

「『オープン教材』をつくらう！ (担当教員: 中澤明子) は、2021年度Aセメスターに引き続いての開講でした。本授業では、まずオープンエデュケーションやオープン教材の定義・特徴・事例に加えて教材設計理論を学びます。その後、オープンエデュケーションやオープン教材について学べる教材を作り、オープンエデュケーションやオープン教材についての理解を深めます。

2022年度の授業では、教材づくりに入るまでのオープンエデュケーション、オープン教材に関する概論パートで、授業で扱った内容や自分で調べた内容をまとめるコンセプトマップ作成を取り入れまし



学生が作成した教材②

(By Y, AG, 福井雄真, たつき CC BY NC4.0)

(4) 全学自由研究ゼミナール/高度教養特殊演習: 未来の学びを考える【理論と事例編】

「未来の学びを考える【理論と事例編】」（担当教員：中澤明子）では、教育・学習について過去や現在の状況を理解した上で、10年後の未来の学びがどうなるかを自分なりに考えること、そしてその過程で自身の教育・学習経験をふり返って教育・学習の理論に位置づけることを目的としました。第2回～第5回の授業では、教育・学習の理論やトピックの資料を扱い、ジグソー法で読解・相互説明した後、問いについて議論しました。第6回～第8回の授業では、学びの事例を知ることをテーマに、学校現場の先生や研究者によるゲスト講義を行いました。第9回では自身の教育・学習に関する経験を、ブロックを使って可視化して相互に説明した後、それまでの授業で扱ったトピックや事例との関連づけを行いました。その後の授業では、グループでの議論や最終発表を行いました。

最終発表は、4つのグループそれぞれが「2032年の学びについて、どこで、誰が、何を、どうやって学んでいるのか」を発表しました。未来の通信制高校での学び、子どもたちが興味を持ってワクワクしながら学習できる未来の学び、受動的な授業を乗り越えるための未来の学びの授業案、VRを使った未来の学びの風景といった発表がなされました。どのグループも、授業で扱ったトピックを踏まえながら、自分たちで調べ議論した内容を発表していました。

13回の授業終了時、受講生にアンケート調査を行いました（回答者13名）。学生からの感想では、「授業内容で扱う事例、理論のようなものを授業自体で体験することができた。教育を学びながら教育を体験することができた。」、「最後の発表は各班、違った内容の発表で面白かった。多様性を感じた」などが挙げられました。授業の改善点としては「発表の準備や発表時間がもう少しあれば、より具体的なところや案の課題に対する解決策のようなものを考えられる（発表できる）かと思いました。」などが挙げられました。改善点は、次年度以降の授業設計に活かしたいと思います。

また、2021年度と同じく第2回～第5回はジグソー法を用いました。事前学習を伴う実践と、授業中にすべてを実施する実践とを行い、それぞれに対する学生の認識を確認しました。その結果、事前学習を伴う実践のほうが学習効果があると感じる一方で、好むのは授業中にすべて行う実践というオンライン授業と同様の傾向が明らかになりました。この内容を日本教育工学会2023年春季全国大会にて口頭発表しました。（中澤）

ワークショップの開催

学内外へのアクティブラーニングの普及を目指して定期的にワークショップを企画しています。

2023年3月、次の2つのワークショップを開催しました。これらについて簡単にご報告します。なお、詳細については、部門webサイト(<https://dalt.c.u-tokyo.ac.jp/event/>)をご覧ください。

駒場アクティブラーニングワークショップ「ジグソー法を授業で活用する」（2023年3月17日）

東大で授業を担当されている先生方を対象に、駒場アクティブラーニングワークショップ「ジグソー法を授業で活用する」を対面で開催しました。当日は10名の方が参加されました。本ワークショップでは、アクティブラーニングの手法の一つとしてよく知られるジグソー法を取り上げ、ジグソー法の基本的なやり方や効果、アクティブラーニング部門が開講した授業でのジグソー法導入の実例に関する情報提供をしました。また、ご自身の授業で活用することについて検討を行いました。

アクティブラーニングの授業モデル開発として部門開講授業で検討してきたジグソー法の手順に則って、ワークショップそのものもジグソー法を用いて実施しました。具体的には、①個人での問いの思考、②資料の読解、③エキスパート活動（資料ごとのグループで内容の確認、説明内容の検討）、④ジグソー活動（担当資料の相互説明、問いに関する議論）、⑦個人での問いの思考という手順で休憩やミニレクチャーを挟みつつワークショップを進めました。



エキスパート活動の様子

資料は、ジグソー法の背景、バリエーション、効果・メリットの三種類を用意しました。「どのような目的・場面でジグソー法を活用できそうか」という問いについて、①・⑦の個人での問いの思考、④ジグソー活動でのグループの議論を行いました。ジグソー活動での議論内容を全体で共有した後、ミニレクチャーではジグソー法の活用の実例として、部門開講授業での事例を紹介しました。その後、⑦個人での問いの思考では、参加者自身の授業について、どのような目的・場面でジグソー法を活用できそうかを思考してもらい、その内容をグループで共有しました。最後に、ワークショップの振り返りとしてジグソー法について新しく知ったことを書き出してもらいました。

ワークショップ後のアンケート（5名が回答）の結果を簡単にご紹介します。「今後の授業準備・実施に役立つものでしたか」、「本ワークショップで扱った内容をご自身の授業で活用できると思いますか」については、とてもそう思うが3名、そう思う

1名、どちらとも言えない1名という回答でした。「本ワークショップへの参加を周りの教員に勧めたいと思いますか」に対しては、とてもそう思う3名、そう思う2名でした。全体的に好評価を得たと考えられるものの、「本ワークショップは、ご自身の授業準備・実施に関連していると思いませんか」という質問について、そう思わないという回答が1名ありました。ご自身の授業目的を踏まえた検討の結果、このように感じられたのかもしれませんが。

ジグソー法は、分野を問わず活用可能な手法です。また、学生による発表をジグソーグループの枠組み（異なるグループのメンバーから成るグループで発表）で行うこともできます。授業目的や学習目標に応じて授業手法の選択をすることは当然ではありますが、その授業手法の選択肢としてジグソー法を加えてみてはいかがでしょうか。（中澤）

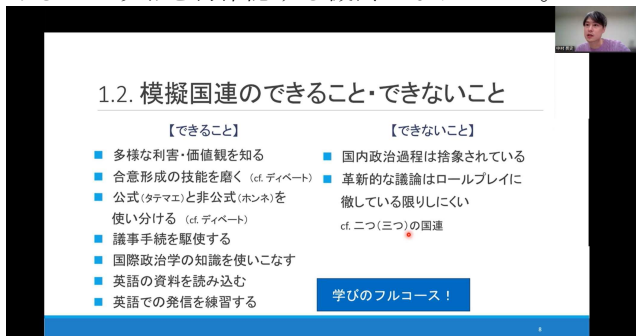


ふり返りワークの様子

第6回 模擬国連ワークショップ（2023年3月24日）

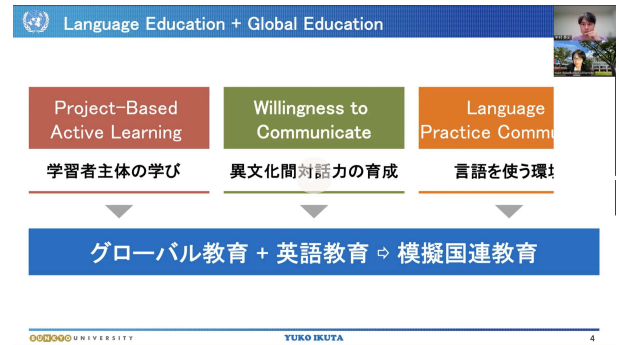
本ワークショップは、先述の全学自由研究ゼミナール／高度教養特殊演習「模擬国連で学ぶ国際関係と合意形成」を踏まえて開催したものです。学内外の大学・高校教員を対象として2019年度から実施しており、今回が6回目となりましたが、37名の参加者が画面越しに集いました。

ワークショップは2部構成としました。セッション1「模擬国連導入事例から学ぶ」では、模擬国連の概要と本学教養学部の授業への導入例について中村からお話しました。導入目的を明確化する必要があるという点を再確認する機会となりました。



セッション1の様子

セッション2「英語での模擬国連導入事例から学ぶ」では、生田祐子先生（文教大学国際学部）から、英語で模擬国連を実施する場合の留意点について具体例とともにご紹介いただきました。言語（英語）教育をご専門に研究されている立場から、国際社会における言語観を踏まえ、「リングフランカとしての英語」を模擬国連を通して学ぶことを意識しているとお話になったのが印象的でした。セッション1で紹介した中村の授業とはまた異なる目的を明確に持っていらっしゃる生田先生の授業事例をご紹介いただいたことで、各人の導入目的や環境に合った「Taylor-madeの模擬国連」を目指そうという本ワークショップの趣旨が一層クリアになったように思われます。



セッション2の様子

参加者からは、「Taylor-madeの模擬国連という考え方を教わったことで、授業にどのように模擬国連を取り入れたいのか、自分なりに考えることができるようになった」、「模擬国連以外の方法も学んだことで、自分のやりたいこと（目的）を達成するためには必ずしも模擬国連だけが最適の方法ではない、ということもわかりました」といった声をいただきました。こうした声を励みに、2023年度も実施していく所存です。（中村）

◆ 今後の活動予定

2023年度Sセメスターも授業を開講し、引き続きアクティブラーニング型授業モデルの検討・開発を行っています。また9月に再びワークショップを開催する予定があります。オンライン授業や部門の活動に関する情報は、部門ウェブサイト (<https://dalt.c.u-tokyo.ac.jp/>) で発信していきますので、ぜひご覧いただければと思います。ワークショップへの参加もお待ちしております。

（奥付）

- 発行年月日：2023年6月30日
- 発行：東京大学 大学院総合文化研究科・教養学部 附属教養教育高度化機構 EX 部門 若杉桂輔・中澤明子・中村長史
- 連絡先：dalt@kals.c.u-tokyo.ac.jp
- Webサイト：https://dalt.c.u-tokyo.ac.jp/

研究インテグリティ・研究倫理教育の取り扱いについて（案）

研究インテグリティ

- ・ 研究活動の国際化、オープン化に伴う新たなリスクにより、開放性、透明性といった研究環境の基盤となる価値が損なわれる懸念
- ・ 研究者が意図せず利益相反・責務相反に陥る危険性

⇒ 国際的に信頼性のある研究環境を構築することが、不可欠

- ✓ 研究者は、大学に必要な情報を適切に申告（「申告書」の提出）
- ✓ 大学は、必要な情報の報告・更新を受け、リスクマネジメント

申告書

様式第1号: 常勤教職員用

様式第1号		令和 年 月 日									
研究インテグリティの確保に必要な情報の申告書											
部署責任者 殿 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>部署名</td> <td>署名等</td> </tr> <tr> <td>職名</td> <td>氏名</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>E-mail</td> </tr> <tr> <td>共通ID</td> <td>h-Res研究部署番号</td> </tr> </table>				部署名	署名等	職名	氏名	電話	E-mail	共通ID	h-Res研究部署番号
部署名	署名等										
職名	氏名										
電話	E-mail										
共通ID	h-Res研究部署番号										
国立大学法人東京大学における研究インテグリティの確保に関する規則第8条第2項に基づき、研究インテグリティの確保に必要な情報について、 <u>大学において管理・把握していない情報</u> を、以下のとおり申告します。											
申告対象年度 令和 年度											
1. 研究者情報											
1-1. 調査											
機関名	機関の国名	職名	開始年月日	終了年月日	内容	報酬等					
* クロスアポイントメントを含む。											
1-2. 外国の人材活用プログラムへの参加情報											
機関名	機関の国名	職名	開始年月日	終了年月日	内容	報酬等					
* 称号等とは、他機関による名誉教授等を指す。											
1-3. 称号等の情報											
機関名	機関の国名	職名	開始年月日	終了年月日	内容	出張費					
* 称号等とは、他機関による名誉教授等を指す。											
2. 報酬、施設・設備等の支援の情報											
2-1. 報酬の情報											
種類	機関名	機関の国名	受領日	内容	金額						
* 報酬の種類は、奨励金、賞金、その他を指す。											
2-2. 施設・設備等の提供情報											
種類	機関名	機関の国名	提供日	内容							
* 施設・設備等の提供とは、施設・設備・機器等の物品及び役務の提供を指す。											
* 報告の対象については、 <u>当面の間、外国機関（外資系企業等を含む。）</u> とします。											

様式第2号: 非常勤教職員等用

様式第2号		令和 年 月 日									
研究インテグリティの確保に必要な情報の申告書											
部署責任者 殿 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>部署名</td> <td>署名等</td> </tr> <tr> <td>職名</td> <td>氏名</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>E-mail</td> </tr> <tr> <td>共通ID</td> <td>h-Res研究部署番号</td> </tr> </table>				部署名	署名等	職名	氏名	電話	E-mail	共通ID	h-Res研究部署番号
部署名	署名等										
職名	氏名										
電話	E-mail										
共通ID	h-Res研究部署番号										
国立大学法人東京大学における研究インテグリティの確保に関する規則第8条第2項に基づき、研究インテグリティの確保に必要な情報について、以下のとおり申告します。											
申告対象年度 令和 年度											
1. 研究者情報											
1-1. 調査											
機関名	機関の国名	職名	開始年月日	終了年月日							
* クロスアポイントメントを含む。											
1-2. 本学以外の業務の情報											
機関名	機関の国名	職名	開始年月日	終了年月日	内容	報酬等					
* 称号等とは、他機関による名誉教授等を指す。											
1-3. 外国の人材活用プログラムへの参加情報											
機関名	機関の国名	職名	開始年月日	終了年月日	内容	報酬等					
* 称号等とは、他機関による名誉教授等を指す。											
1-4. 称号等の情報											
機関名	機関の国名	職名	開始年月日	終了年月日	内容	出張費					
* 称号等とは、他機関による名誉教授等を指す。											
2. 外部資金情報											
2-1. 補助金等											
機関名	機関の国名	制作者	研究代表者	開始年月日	終了年月日	研究課題名	金額				
* 補助金等とは、補助金、助成金を指す。											
* 研究代表者等とは、研究代表者、研究分担者を指す。											
2-2. 寄附金											
機関名	機関の国名	受領日	内容	金額							
* 寄附金等とは、寄付金、助成金を指す。											
2-3. 民間研究費											
機関名	機関の国名	研究代表者	開始年月日	終了年月日	研究課題名	金額					
* 民間研究費とは、民間研究、民間企業、研究機関、学協会等からの研究費を指す。											
* 研究代表者等とは、研究代表者、研究分担者を指す。											
2-4. 委託研究等											
機関名	機関の国名	制作者	研究代表者	開始年月日	終了年月日	研究課題名	金額				
* 委託研究等とは、委託研究、委託事業を指す。											
* 研究代表者等とは、研究代表者、研究分担者を指す。											
3. 報酬、施設・設備等の支援の情報											
3-1. 報酬の情報											
種類	機関名	機関の国名	受領日	内容	金額						
* 報酬の種類は、奨励金、賞金、その他を指す。											
3-2. 施設・設備等の提供情報											
種類	機関名	機関の国名	提供日	内容							
* 施設・設備等の提供とは、施設・設備・機器等の物品及び役務の提供を指す。											
* 上記の各情報の記載にあたり、期間において管理・把握している情報については記載は不要です。											
* 報告の対象については、 <u>機関の間、外国機関（外資系企業等を含む。）</u> とします。											

対象者（現時点での見込み）

- (1) 常勤の研究者
 - (2) 本学で管理する研究費を有する非常勤の研究者
 - (3) 本学で管理する研究費を有する雇用関係のない研究者
- ✓ 提出方法、締め切り等の詳細は、本部の説明会・通知待ち

研究倫理教育（案）

研究活動に従事している者

研究倫理教育

- ・ 日本学術振興会の冊子「[科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－（Green Book）](#)」の通読
([APRIN eラーニングプログラム](#) の受講でも代替可)

教員・研究者 ⇒ 研究倫理教育を5年に一度受講し、『**確認書 A**』（直筆・紙媒体）を提出

博士課程学生 ⇒ 研究倫理教育を在学中1度受講し、『**確認書 A**』（直筆・紙媒体）を提出

修士課程学生* ⇒ 研究倫理教育を在学中1度受講

学部学生 ⇒ 研究倫理教育（必修の講義）を在学中1度受講

- * 修士課程学生のうち、研究費を受給している者、競争的研究費・助成金に応募する者、研究プロジェクトの参加者リストに入っている者、各種実験の申請をする者は『**確認書 A**』（直筆・紙媒体）を提出する。
- * 休学中、留学中の学生は任意。

研究費の運営・管理にのみ関わる者

研究倫理教育（コンプライアンス教育）

以下のいずれかを受講する。

- ・ 日本学術振興会の冊子「[科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－（Green Book）](#)」の「第6章 研究費を適切に使用する」の通読
- ・ 東大TV「[公的研究費の適正執行について](#)」の動画視聴

事務職員等 ⇒ 研究倫理教育（コンプライアンス教育）を5年に一度受講し、『**確認書 B**』（直筆・紙媒体）を提出する。

- * いわゆる秘書業務の従事者、財務会計システムのユーザーは対象になる。

- ✓ 従前、博士課程学生のすべてに「確認書 A」の提出は求めていなかった¹が、博士学生は、実質的に研究活動に従事していることから、組織全体として、研究倫理に関する意識の向上を図るため、これを機にすべての博士課程の学生から研究倫理教育の受講と「確認書 A」の提出を求めることにしたい。
- ✓ 2024年度からは、D1に入学した学生・転入した学生を対象に、研究倫理教育の受講と「確認書 A」の提出を求めることにしたい。

¹ 特別研究員（DC）、研究費を受給している者、競争的研究費・助成金に応募する者、研究プロジェクトの参加者リストに入っている者、各種実験の申請をする者が「確認書 A」の対象

総文での取り扱い（案）

意図せざる利益相反・責務違反を防止し、より良好な研究環境の構築するために、総文では、すべての研究者と博士課程学生（ただし、休学中・留学中の博士課程学生は任意）に「申告書」の提出を求めることとしたい。

あわせて、研究倫理教育の受講と「確認書 A」の提出を求め、組織全体として、研究倫理に関してさらなる意識向上を図りたい。既に確認書を提出している方も、今後の管理の関係上、改めて、研究倫理教育を受講の上、確認書を提出いただきたい。

「申告書」と「確認書」の提出にあたり、各専攻・系・機構に、取りまとめをお願いしたい。

必要書類（案）

対象者	受講すべき 研究倫理教育	必要書類	
		研究インテグリティ 申告書	研究倫理教育 確認書
常勤教員・研究者	Green Book の通読	常勤教職員用	確認書 A
非常勤教員・研究者		非常勤教職員用	
博士課程学生			
修士課程学生のうち、 ※1 に該当する者			
修士課程学生のうち、 ※1 に該当しない者	—	—	
学部学生	必修の講義	—	—
事務職員等のうち、 ※2 に該当する者	Green Book の第 6 章の 通読	—	確認書 B

※1 研究費を受給している者、競争的研究費・助成金に応募する者、研究プロジェクトの参加者リストに入っている者、各種実験の申請をする者

※2 いわゆる秘書業務に従事している者、財務会計システムに登録されている者

スケジュール<予定>

- ① 本部の説明会・通知後、メールで専攻等へ依頼
- ② 各専攻・系・機構は、窓口となる方を指名して、研究支援チームへ連絡
- ③ 研究支援チームから、窓口の方へ雇用者・博士課程学生等のリストの提供
- ④ 各専攻・系・機構において、該当者リストの作成（研究室単位への仕訳、被雇用者（名誉教授・対象となる修士課程学生・派遣職員等）の追加）
- ⑤ 「申告書」と「確認書」を関係者から徴収し、取りまとめ
- ⑥ 研究支援チームに提出

教B 2号

東京大学教養学部規則の一部を改正する規則（案）（令和 年 月 日東大規則第 号）

改正理由：学内共同教育研究施設であるグローバル教育センターによるグローバル教養科目群の開設、他学部の科目を履修する際の手続簡素化及び後期教養教育科目の名称変更に伴い、所要の改正を行うものである。

現 行	改 正												
<p style="text-align: center;">(略)</p> <p>第15条 学生は、所属以外の学部(以下「他学部」という。)、学科、分科及びコースの科目を履修することができる。</p> <p><u>2 他学部科目を履修しようとするときは、本学部長及び関係学部長の許可を受けなければならない。</u></p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>別表第2（第13条、第18条関係）</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>2 高度教養科目表</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">授業科目名</th> <th style="width: 30%;">単位数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">(略)</td> <td style="text-align: center;">(略)</td> </tr> <tr> <td>後期教養科目として指定されている科目(備考2)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>備考</p> <p>1 (略)</p> <p>2 各学科の定めるところにより、各学科<u>及び</u>他学部が後期教養科目として開講する科目を高度教養科目の単位に含めることができる。</p> <p>3 (略)</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>	授業科目名	単位数	(略)	(略)	後期教養科目として指定されている科目(備考2)		<p style="text-align: center;">(略)</p> <p>第15条 学生は、所属以外の学部(以下「他学部」という。)、学科、分科及びコース<u>並びにグローバル教育センター</u>の科目を履修することができる。</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>別表第2（第13条、第18条関係）</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>2 高度教養科目表</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">授業科目名</th> <th style="width: 30%;">単位数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">(略)</td> <td style="text-align: center;">(略)</td> </tr> <tr> <td>後期教養<u>教育</u>科目として指定されている科目(備考2)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>備考</p> <p>1 (略)</p> <p>2 各学科の定めるところにより、各学科、<u>他学部及びグローバル教育センター</u>が後期教養<u>教育</u>科目として開講する科目を高度教養科目の単位に含めることができる。</p> <p>3 (略)</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>	授業科目名	単位数	(略)	(略)	後期教養 <u>教育</u> 科目として指定されている科目(備考2)	
授業科目名	単位数												
(略)	(略)												
後期教養科目として指定されている科目(備考2)													
授業科目名	単位数												
(略)	(略)												
後期教養 <u>教育</u> 科目として指定されている科目(備考2)													

附 則

この規則は、令和5年 月 日から施行し、令和5年4月1日から適用する。